がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
1	脳・神経・眼	脳腫瘍	い	イッスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きたい	ナカタ カンジ 中田完二	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 白血病	2001
2		脳腫瘍 (脊索腫)	お	オヤコ ツズ カイゴ ウタ 母娘で綴った介護の詩	ニシカワ キミコ 西川公子	ありあけ出版		2001
3		脊髄腫瘍	た	タテ スワ アル 立てない・座れない・歩けなくなっ て…	タケグチ ナカアキ 滝口仲秋	本の泉社		2008
4			ぼ	ボディ・サイレント	ロバート・F・ マーフィー	平凡社ライブ ラリー	脊椎にできた「良性」の腫瘍によって神経系が徐々に破壊されるとい う死に至る病に冒された人類学者が、自分自身や家族、周囲の 社会をフィールドワークした人類学的ドキュメンタリー。	2006
5			ゆ	ゆりちかへ ママからの伝言	テレニン アキコ 晃子	書肆侃侃房	力強く、大きな愛情のつづやき。優しく、微笑に満ちた言葉。悲しい のではなく、清々しい、吐息…。ガンと闘う母が生まれたばかりの 愛娘におくる、かけがえのないメッセージ。	2007
6	口・のど	口腔がん	あ	アンラク セイ シ 安楽 生と死	ニシノ タツキチ 西野辰吉	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な 死を」という渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床 医・薬害等の医療現場の深い闇を照射する渾身の告発書。*食道 がん	1996
7			そ	それでも私は生きる	ニワコヤタ 丹羽小弥太	主婦の友社		1976
8			は	ハリ センボン ワタクシ トウビョウキ 針千本 私のがん闘病記	エナツ ミヨシ 江夏美好	河出書房新社		1982
9		上咽頭がん (鼻中隔が ん)	り	リライフへの道	ムーラン	新風舎		2007
10		上咽頭がん (上顎洞が ん)	お	オオトリ ケイスケ トウビョウキ 鳳啓助のポテチン闘病記	オオトリ ヨ 鳳ハマ子	毎日新聞社		1994
11	上咽頭がん (上顎がん)	が	ビョウショウ セイカン がん病床からの生還	ミヤケ ヤスオ 三宅泰雄	新日本出版社		1981	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
12	口・のど 咽頭がん	中咽頭がん (扁桃腺がん)	い	イノチ 生命のフィールド ガンを克服した ダイ 大リーガー	ブレッド・バト ラー ジェリー・ジェ ンキンス	小学館	絶望の淵から、彼はフィールドに戻ってきた。突然のガン宣告を受けながらも、諦めることなく堅固なる信仰を支えにガンに立ち向かい、そして克服した一人の大リーガーの、真実と希望の物語。	1999
13			あ	アクティブ・デス シンカイオシヨウ シ 真快和尚の死の センタク 選択	カワゴエヨウ 川越厚	岩波書店	死を迎えるにあたり、患者自身がいのちの主体として納得のいく計画をたて、一連の医療プロセスに積極的に関わりながら生を全うするアクティブ・デス。自ら死をデザインした一人の僧の姿から、新しい医療観を展望する。	1997
14				一日生きれば	安田つたゑ	看護の科学社		1991
15			い	イリョウ カンジャ セイカツ スク 医療は患者の生活を救えるか あ カンキョウ カガク キジュツシャ トウビョウ タイケン る環境化学技術者のがん闘病体 験から	ミウラヨシアキ 美浦義明	パロル舎	優秀な環境化学技術者として高度成長期を駆け抜け、退職直後に中咽頭がんを発病した著者が、闘病生活の中で見出した全く新しい健康観・死生観を具体的な経験とともに提示。現代医療や現在の日本社会に警告を発する。	2005
16			こ	コエ 声をなくして	ナガサワ ミツオ 永沢光雄	晶文社	インタビューの名手として知られる著者は43歳の或る日、下咽頭ガンの手術で声を失ってしまう。その闘病生活を1年にわたり赤裸々に綴った日記。何があっても生きる。だから、みんなも生きて欲しいというメッセージを贈る。	2005
17			た	タマガワ オンセン トウビョウ ニッキ 玉川温泉ガン闘病日記	ふじみとむ	無明舎出版	上咽頭ガンで余命3カ月を宣告され、希望の光を「玉川」に求めた著者が綴った、前向きでユーモラス、そして不屈の、渾身の闘病記。	2003
18			に	ニシ ム 西へ向かう	ヒガンダ ヒサカズ 東田寿和	編集工房あゆ い	フォーク世代の50歳。末期がんを宣告されて5年。自らの命を有限と見定めたところから、本音の人生の後半戦が始まる!「がん」を分岐点とした、ひとりのオヤジの飄々・痛快エッセイ。親友・デューク更家との対談も収録。	2004
19			は	ハワイの海へ	三沢慶子	キャロム		2000
20			ふ	フウフ 夫婦で「がん」を生きる	スガスマ テイケン 菅沼定憲	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましょう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。*乳がん	2008

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
21	咽頭がん		ふ	フウフドウジ 夫婦同時ガンになって ガン患者 の最新治療報告	スガヌマ テイケン 菅沼定憲	阪急コミュニ ケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状がま たくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場から のガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の記 録。*乳がん	2006
22			ぼ	ボク ゲンキ 僕は元気なガン患者	カド ツラユキ 角行之	医療文化社	*食道がん、胃がん	2008
23			ゆ	ユメ ハナ ベントウ 夢の花弁当	オガワ ヒロコ 小川裕子 オガワ ヨウゾウ 小川幸三	文芸社		2008
24	口・のど	喉頭がん	い	ミ フウケイ サッカ メ エガ いまだ見ぬ風景 作家の目で描き 切ったガンとの闘い	コサカイ ショウゾウ 小堺昭三	文藝春秋	喉頭ガンの手術から3年。慶応病院の診察では、もう大丈夫と担当 医にも言われていたほど経過は良好だった著者の突然の死。時 に狂おしいまでに生への執着を見せ、時に冷静に現代医療の限 界を衝いた、作家のガンとの闘いの記。	1995
25			が	コエ ウバ ショジュツゴカイ ガンに声を奪われて 手術五回・ 死線をさまよって知る生きる意味	エグチヒロシ 江口準	新生出版	戦争・敗戦・再生・繁栄と目まぐるしく変わった日本。静かな老後 を夢見た私を待っていたのは、声を失った人生でした…。激動の昭 和を生き、2001年9月、咽頭ガンのため声帯を摘出し、声を失った 男のものがたり。	2005
26			こ	コウトウ マンダン コロムビア・ライトの喉頭がん漫談	コロムビア・ ライト	日本医療企画		1994
27			ね	ネム キョウダイ 眠れ！兄弟がん がんになった一 外科医の告白	シノダトクゾウ 篠田徳三	文芸社	*食道がん	2004
28			舌がん		あ	アイ マリエ 愛すればこそ 真利絵のためにマ マは癌と闘ったよ	フカダ トシヒコ 深田利彦	郁朋社
29	う	ウンナ コエ 失われた声			カトウ サチコ 加東祥子	テレビ朝日		1990
30	が	ジンセイ がん人生			シオザワ トキ 塩沢とき	データハウス	*乳がん	1992
31	が	ハナ カゼ がんになって 花になって 風に なっている			ハヤサカ ユミ 早坂由美	コスモヒルズ		2007

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
32	口・のど	舌がん	が	ガンも自分いのちを生きる <small>ジブン イ</small>	ササザワ サホ 笹沢左保	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。* 胃がん	1994
33			こ	告知ありし日より <small>コクチ ヒ</small>	フクダ ケン 福田謙	東京図書出版会		2003
34			た	岳史よ、生命あるかぎり <small>タケシ イノチ</small>	カウヨウイチ 加東康一	講談社		1990
35			ひ	ヒロ、先にごめんね。現役看護師が遺した壮絶ガン闘病記 <small>サキ ゲンエキカンゴシ</small>	ヤマシタ クニコ 山下久仁子	幻冬舎ルネッサンス	舌がピリピリする…。そう言って耳鼻科を受診した時から始まる、ある現役看護師の日記。平成15年1月から翌年4月までの経過を綴る。ガンとの壮絶な戦いの貴重な記録。そして、家族への愛の記録。	2005
36			み	みんなが嘘をついている 十返肇 ガンとの闘い <small>ウソ トガエリ ハジメ</small>	トガエリ チズコ 十返千鶴子	文藝春秋		1969
37			舌がん(舌根部腫瘍)	が	ガン告知が私を変えた <small>コクチ ワタン カ</small>	クボタ シンゴ 久保田進吾	静岡新聞社	
38	甲状腺がん	か	か	風はアゲント <small>カゼ</small>	ヨシカワ コ 吉川なよ子	毎日新聞社	「おしん」といわれた半生、賞金女王のプレッシャー、離婚のストレス、がんとの闘い、リハビリと復帰、がんの再発と死の恐怖、30勝への思い…。プロゴルファー吉川なよ子の波乱にとんだ人生を描く。	1999
39			からだに寄りそう がんと暮らす日々 <small>ヨ クラ ヒ</small>	ハタエノフコ 波多江伸子	春秋社	自ら二度のがんを経てたどりついた独自の身体観、両親を在宅ホスピスで看取って覚えた病と死との和解術を、医療倫理の専門家が語る。闘わないためのもうひとつの闘病記。	2003	
40			そ	その夏の別れ <small>ナツ ワカ</small>	ワダ タカシ 和田 俊	筑摩書房	23年間共に暮らした最愛の妻をがんで失った著者は、人間にとっての“愛と死”の意味を初めて知る。深い悲しみと尽きぬ感謝をこめて綴られたひと組の夫婦の愛の記録。	1996
41			ほ	Home 家族と歌が僕を守ってくれた <small>カゾク ウタ ボク マモ</small>	キヤマ ユウサク 木山裕策	光文社		2008

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	
42	胸部	肺がん	あ	アスカ デンゴン センコク ハハ ム 飛鳥への伝言 がん宣告の母から	タチバナ マサコ 橘雅子	講談社	生きるって何? 人間って何? 生命って何? 末期がんを抱えて生きる母が、最後の瞬間まで自分の生き方を貫く大切さをわかってほしいと、最愛の一人息子・飛鳥に思いを託す。一年余りにわたって綴られた病状報告。	2000	
43				ある末期がん患者のつづやき	コウチ テツオ 高地哲夫	MEDSi	自らが治療の見込みのないがん患者となったことで、医療への考え方の大転換を迫られた麻酔科医。末期がん患者になって初めて見えてきたのは…。麻酔を核とした総合誌『LiSA』連載を単行本化。	2000	
44			い	イ 生かされて生きる	トツカ イツオ 戸塚逸男	プレジデント社		1996	
45				インヤ シンサツシツ 医者のない診察室	ササキ ユミ 佐々木由美	三秀社		2008	
46				イ 愛しのサザビー	AYA	バジリコ出版	サザビー、クリスマスと一緒に過ごせなくてごめんなさい。イエス様がね、今年はどうしてもママのオルガンを聞きたいんだって。だから…。ガンで急逝した女性が愛犬サザビーのために残したブログ日記を書籍化。	2007	
47				イ いのちの落語	ヒグチ ツヨシ 樋口強	文藝春秋	がんと闘う人々とその家族を招待し、東京深川で1年に1度だけかかる創作落語がある。その高座に上るのは悪性の肺がんから生還した会社員…。第2の人生を笑いに捧げる著者がおくる、実体験に根ざした笑い涙の創作落語。	2005	
48				イ 生命の羅針盤 医師である娘が末期がんの父を看取るとき	ヤマダ ケイコ 山田恵子	講談社	医療とは何か、生命とは何か。大切な人に今あなたができることは何か。医師の視点と娘の目線。今までなかった両方の視線から問いかける医療ドキュメント。	2009	
49				が	ガンから二度の生還 「民医連」手術体験記	サナダ ナオン 真田是	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。* 食道がん	2003

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
50				ガンが病氣じゃなくなったとき 死があるからこそ次のいのちは生まれ育つ、そして生きる力となり、受けつがれていく	イワサキ ジュンコ 岩崎順子	青海社	がんに出会った朝蔵、漁次、落子の子らのいる家族。がんが贈り物に思える日、思えない日をありのままに綴る。この世で一番大切なものとは? 静かに問いかける書。	2005
51				がんに克つこと何でもやった「肺がん」が消えた! 複合免疫治療の記録	ウスイ ヒロシ 臼井浩義	講談社		1993
52				がんにかけてたまるか	ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	桐書房	肺がん、大腸がん闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。* 大腸がん	1999
53	胸部	肺がん	が	ガンの夫を自宅で看取る 医療ソーシャルワーカーの介護日記から	コジマ ミヅコ 児島美都子	農文協	末期ガンで余命六カ月の告知を夫が受けた。その時夫妻が選んだのは「普通の生活」だった…。ガン患者がおだやかに生を終えるためにはどうしたらいいか、妻の介護日記の中にその鍵が述べられている。	1998
54				ガン癌よ、ありがとう 宣告されてはじめて知った生きていることへの感謝と感動	スイズ ユクヒロ 水津征洋	風雲社	「あなたは癌です」と宣告されてから、ありとあらゆる免疫力を上げる方法を試みた。それと同時に、心の持ち方が病気を治すために、人生を幸せに生きていくためにいかに大切か気付かされた。小細胞癌を克服した著者の手記。	2005
55				ガンを味わう旅	サトウ キミコ 佐藤貴美子	新日本出版社	夫が「肺がん末期」と告知されてから二年間を共にたたかった妻の手記。社会進歩を求めて職場で思想差別を受けてきた夫の生き方が、積極的にがんをとたかう強さにつながる。	2001
56				ガンを味わう やまかわみつる遺稿	やまかわ みつる	東銀座出版社	告知直後 ふいに私のなかに 突きあがってきたあれは 何であったか 体に巣喰う癌とたたかってやる たたかわねばと 火が点いたように私を 熱くしたもの-告知から最期を迎えるまで書き綴った作品をまとめた詩画集。	2000
57			<	クモ ウエ ヒトミ 雲の上の瞳へ	アンドウ フサヨシ 安東房吉	牧歌社		2006

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
58	胸部	肺がん	げ	ゲルマニウムは蜘蛛の糸	小林利夫・謙之	廣川書店		2003
59			こ	後悔だらけのがん闘病	ナカヤマモトキ 中山幹	新潮OH!文庫		2000
60			さ	桜は二度咲いた肺がんと闘い、 逝った女優・三ツ矢歌子	オノダヨシキ 小野田嘉幹	イースト・プレス	3回忌を前に、女優・三ツ矢歌子の闘病生活と死の真実を、夫が苦悩とともに赤裸々に明かす。がんに侵された歌子は、どう生き、どう減んでいったか。日々の往復書簡を紹介し、苛酷だった闘病と看護の生活を描く。	2006
61				31歳ガン漂流	オクヤマタカヒロ 奥山貴宏	ポプラ社	自分がガンになるなど想像もせず、気ままに過ごしていた日々、突如「肺ガン」という事実がふりかかってきた。もちろん、ガン細胞とは闘う。でも、オレの日常はガンには譲り渡さない。そんな日々を赤裸々につづる日記。	2003
62				33歳ガン漂流 ラスト・イグジット	オクヤマタカヒロ 奥山貴宏	牧野出版	オレを覚えてほしい…。余命宣告期限プラス2ヶ月。ガンと闘いながら、書くことに命を燃やし続けた男が逝った。「32歳ガン漂流 エヴオリューション」から亡くなる間際まで、力をふり絞り残したものをブログ中心に編集。	2005
63				32歳ガン漂流 エヴオリューション	オクヤマタカヒロ 奥山貴宏	牧野出版	余命10ヶ月？それがどうした!? オレは今、生きてるぜ。Web、テレビで大反響の新型闘病記「31歳ガン漂流」から1年、ますます熱い日々を綴る。	2005
64			じ	熟年介護日誌 病人が病人を看るといふこと	コバヤシヒロタダ 小林弘忠	日本放送出版協会	母は認知症、妻は直腸がん、ふたりを介護する著者もある日、肺がんを宣告されて…。高齢社会の残酷さを実体験として紹介。また、信頼される医療についても考える。	2007
65			ち	父のがんを知った日から	コバヤシサトシ 小林智	寿郎社	突如、知らされた故郷の父の肺がん。告知するべきか否か…。初めての経験にとまどいながらも家族が一丸となって父を看取った感動のドキュメント。「がん」に関する本の紹介も充実。	2003
66			つ	妻と私	エトウジュン 江藤淳	文藝春秋	「治癒不能の癌、三ヶ月の命」宣告はある日、突然下った。死と競うように看病は続く。苦悩の日々とその合間に訪れる甘美な思い出。ついに妻を看取った時、自らも病魔に冒され、死の淵に立つ。生死の深淵を描く。	1999
67			て	定年大病 高齢期に避けがたい 「がん」にいかに対処するか?	イワキキヨタ 岩城喜代太	かんぼう(自費出版)	大手鉄鋼会社を定年退職し、再就職も決まり、「さあこれから」という矢先に定期健康診断で肺がん発見。治療、手術、自宅療法、定年うつ体験、悩み考えた事柄等をまとめる。「緩和ケアも含めての治療計画」に役立つ一冊。	2003

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
68	胸部	肺がん	て	テンキソウ ニチロク ハイセンガン イ ツ 「天気草」日録 肺腺癌で逝った マ バンカ 妻への挽歌	カトウ ヨウイチ 加藤幸一	のべる出版	インターネットで全国に共感と感動の漣を広げた記録。最愛の妻を肺腺がんで亡くした著者の慟哭。入院する妻を支える日々を日記でまとめた愛と感動の書。	2003
69			て	テンキソウ ハイセンガン イ ツマ トウビョウキ 天気草 肺腺癌で逝った妻の闘病 記	カウ アキコ 加藤明子	のべる出版	インターネットを通じてがん患者と医療者に共感と感動の漣を広げた家族の記録。ある日、妻の肺にがん、転移。妻と夫は意思として普通を生きた。そしてつかんだ、家族の幸福…。旅立つ前日まで綴られた妻の日記をまとめる。	2003
70			と	トウダイ チリヨウイ ガン 東大のがん治療医が癌になって ムジョウ キンムイ セイカツ ああ無情の勤務医生活	カウ ダイキ 加藤大基 ナカガワ ケイチ 中川恵一	ロハスメディア	がん治療に関わってきた医者が、34歳にしてがん患者となった。がん患者となった経緯を追いながら闘病・がん患者としての心境を綴る。また、勤務医の劣悪な労働環境など、医療問題についても言及する。	2007
71			は	ハイ ビョウトウ セイカン 肺ガン病棟からの生還	ノハラカズオ 野原一夫	新潮社		1990
72			ふ	フウフ 夫婦でがんになりまして…	カラムスウ 唐麻好	中経出版	* 胃がん	2007
73			ふ	フツウ 普通にしようや	カノウヒデキ 加納秀樹	どりむ社		2001
74			ふ	プロジェクト・キャンサー 「けもの ミチ 道」を選んだガン患者 エラ カンジャ	オオハシ ジュンイチ 大橋淳一	角川書店	肺がんを告知された著者は家族のために10年生きることを決意。手馴れた企業戦略手法で情報を収集・分析、人脈を作り上げ、世界最先端治療に行き着く。自ら最善治療を選択する『患者学』を体現した感動ノンフィクション。	2001
75			ぼ	ぼくの父はこうして死んだ 男性自 チチ シ ダンセイジン 身外伝 ン ガイデン	ヤマグチ ショウスケ 山口正介	新潮社	いかにして死すべきかを考え続け、周囲への気配りを最後まで忘れずに逝った父・山口呆。彼の名エッセイ「男性自身」が黙して語らなかった壮絶な日々を再現する、感涙の記録。	1996
76			ぼ	僕はガンと共に生きるために医者 トモ イ イシャ になった 肺癌医師のホームペー ハイガン イン ジ	イナツキ アキラ 稲月明	光文社新書		2002
77			ま	マ 負けてたまるか 肺ガン刑事の長 ハイ ケイジ ナガ 生き奮闘記 イ フントウキ	コシハラ ツネオ 腰原常雄	二見書房	余命3年の宣告から30年。手術で声を奪われた警部は職場復帰し、再発の不安の中、数々の大事件を解決、捜査一課長まで務めあげた。第2回NHK学園自分史文学賞優秀賞を受賞した「はなしあいて」に大幅加筆。	2002

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
78	胸部	肺がん	ま	マツキ ハハ オク モノ 末期ガンの母への贈り物	たまきいづむ	桂書房	余命半年と宣言された母に、娘はどんな贈り物をすべきか？ 私は母に「告知はしない」という贈り物を選んだ…。悩み、苦しみ、戸惑いながらも選んだ「贈り物」の数々を通して、母と共に過ごした半年間を綴った手記。	2005
79			ウミ ソンゲンシ キロク まどろみの海へ ある尊厳死の記録	ホリエ セイジ 堀江誠二	PHP研究所	抗癌剤による治療はしたくない。自分自身を題材に、人が死んでいく様子を記録したい！ 末期肺癌で入院したテレビ構成作家が、5か月におよぶ病院生活と死に至るまでの過程を赤裸々書き出したドキュメント。	2006	
80			イノチ ヒ シンキンコウソク ハイ わが命の灯を 心筋梗塞と肺ガンを越えて	アギ オウスケ 阿木翁助	講談社	* 心筋梗塞	1990	
81			ワタクシ イ 私らしく生きたい	ヤスダ 安田いづみ	さんこう社		2004	
82			シ アユ ハハ ゆーわけ、こわけ 死を歩む母、グループケアの記録	ミズサワ シュウ 水沢周	文藝春秋		1991	
83	胸部	胸腺がん	お	カア パラ クニ イ お母さんは薔薇の国へ逝った	マツヒサ タカシ 松久隆司	文芸社	若くして癌で逝った妻の闘病の詳細を、深い愛情を込めて日記風につづったドキュメント。著者自身の全存在をかけて妻を救おうと苦悩し行動する姿が描かれた渾身の一冊。	2002
84			セ	センシ ケイレイ 戦士に敬礼！	サイトウ ナナ 斎藤菜々	悠飛社	自ら多臓器転移を伴うガンに侵されながらも、最期まで医師の務めを全うした東京医科歯科大学外科医局長。病気が発覚してからの地獄の1か月、妻の出産、職場復帰、そして最後の日々までを綴る、妻による亡き夫への鎮魂曲。	2006
85			と	トオ キョク カンジャ 遠い記憶 とあるがん患者のメモより	フタセ カズトシ 二瀬一俊	東洋出版		2002
86	消化管	食道がん	あ	サンネン ゴネン ロクネン あれから三年もう五年、そして六年	アセイ 蛙声-nakai-	星湖舎		2006
87			アンラク セイ シ 安楽 生と死	ニシノ タツキチ 西野辰吉	三一書房	食道がん・口腔がん(棘細胞)に侵された著者の、「余命こそ安楽な死を」という渴望を、文学者の奥深い眼でつづる。医療政策・臨床医・薬害等の医療現場の深い闇を照射する渾身の告発書。*口腔がん	1996	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
88			い	イ モノ キロク サトウケン 生きる者の記録 佐藤健	サトウケン シュ 佐藤健と取 ザイハン 材班	毎日新聞社	末期がんにむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見据えた新聞記者。自身の最期の1カ月を、湯治場や病床の風景とともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルタージュ。* 肝臓がん	2003
89				ガン ク アキ サケ おい癒め酌みかはさうぜ秋の酒 エクニ シゲル トウビョウ ニッキ 江国滋闘病日記	エクニ シゲル 江國 滋	新潮社	食道癌告知、十時間余の大手術、水一滴飲めぬ六ヶ月間に綴られた日記と詠み続けられた俳句は、壮絶で粹でさえあった。敗れはしたけれど闘いきった187日、闘病俳句223句を収録。表題は「敗北宣言」と題された辞世句。	1997
90			お	オオソラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ ニュ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ ウ イ ショクドウ 乳がん胃がん食道がん	オオソラ マユミ 大空真弓	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ * 胃がん、乳がん	2005
91				オット ショクドウガン 夫と食道癌	イチイアイコ 一井愛子	健友館		2003
92	消化管	食道がん		オヤ 親ががんだとわかったら一家族目 チリョウ タイケンキ 線のがん治療体験記	カゾク メセン はにわきみ こ	文藝春秋	72歳の父にがん発覚！娘は何をすればいいの？健康ライターの娘が描く、明るく読めて役に立つ治療体験記。病院選び、治療法の検討、入院便利グッズなどのノウハウが満載。	2010
93			か	カゼ フ イチ カイギョウイ ショクドウ ビョ 風に吹かれて 一開業医の食道ガ ウシヨウ サツキ ン病床雑記	クガ セイヤ 久賀征哉	海鳥社	進行性食道ガンの発病、手術、転移、抗ガン剤治療-。遠からぬ死を眼前に見据え、痛みを恐れ、自己の消滅に怯えつつ、残された時をかけ生の意味を問う。医師として、患者として、病床で綴った畢生のドキュメント。	2000
94				ガンから ニドノ セイカン ミンイレン シュ ジュツタイケンキ 術体験記	サナダ ナオシ 真田是	かもがわ出版	肺ガンと食道ガン手術の体験記。運が良かっただけでなく、一番大きな理由は「民医連」が達していた医療水準と独特の国民の健康に奉仕する蓄積であったと考え、命拾いをした患者の目から、民医連へのデマを許さず事実を述べる。* 肺がん	2003
95			が	ニッキ ニセンヨネン ニガツヨウカ ガン日記 二〇〇四年二月八日ヨ サンガツ ジュウハチニチ ニュウイン り三月十八日入院マデ	ナカノ コウジ 中野孝次	文藝春秋	限られた日々を見据えた、清冽にして、つよい、40日間のまさに珠玉の言葉…。ガンの告知を受けた故中野氏が、平成16年2月8日から同3月18日まで、検査通院を繰り返し、治療のために入院する日の朝までを記したもの。	2006
96				シュクメイ イヤシ ウンメイ タタカ カ ガンは宿命癒しは運命 闘って克 シン フウフヨウジョウケン つ新・夫婦養生訓	セキネ ススム 関根進	太陽企画出版	ガン病棟脱走から一年。宿命と運命に頭をゴツンゴツンとぶつけながら編み出した、中年夫婦の「癒しの養生訓」。日経BP社99年刊「母はボケ、俺はガン」に続く、それから一年間の闘病始末記。	2000
97				ガン 癒め	エクニ シゲル 江國 滋	富士見書房 (角川文庫は 1999)	おい癒め酌みかはさうぜ秋の酒 ドキュメントを超えて表現された、闘病の〈現実〉と心情のすべて。江国滋が遺した545句。	1997 1999

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
98	消化管	食道がん	こ	^{オオ ソラ ウエ} この大きな空の上から	^{ヒノ サトミ} 日野聡美	新風舎		2007
99			さ	^{ヤクソク オット ササ ユウキ サ} さいごの約束 夫に捧げた有機の ^{ケ ナ ツキ} 酒「和の月」	^{サカモト ケイコ} 坂本敬子	文藝春秋	造り酒屋の六代目、働きざかりの夫ががんに倒れた。余命半年。あらゆる最新の治療法を試したあとで、妻は決意した。夫の生きたあかしに新しい酒を造ろう。夫婦の絆を問う感動の手記。	2005
100			さ	^{サクラ ハナ サ} 桜の花が咲くまでは 俳優・三浦洋 ^{ハイユウ ミウラヨウ} ^{イチ ショクドウ タカ ヒビ} 一食道ガンと闘った日々	^{ミウラ マリコ} 三浦真理子	扶桑社	「桜の花が咲くまでは生きてほしい、そして本人も生きたいと闘い続けた日々でした…」15年にもおよぶ持病との闘い、そしてガンの宣告。病気を押し立てた最後の舞台。妻が明かす、夫・三浦洋一の闘病のすべて。	2001
101			し	^{シュウマツ ヨノオ} 終末への装い	^{カワクボ} 川久保とくお	文藝書房	その年もバリウムによる消化器の集団検診を受けた。2週間ほどで「精密検査の要あり」という通知がきた。「ああ、やっぱりまずかったな」と思っただけで気持の動揺はなかった。しかし…。ノンフィクション。	2005
102			た	^{タカミ ジュン トウビョウ ニッキ} 高見順 闘病日記 上	^{タカミ ジュン} 高見順	岩波書店(同時代ライブラリー)		1990
103			た	^{タカミ ジュン トウビョウ ニッキ} 高見順 闘病日記 下	^{タカミ ジュン} 高見順	岩波書店(同時代ライブラリー)		1990
104			ね	^{ネム キョウダイ} 眠れ！兄弟がん がんになったー ^{カイ コクハク} 外科医の告白	^{シノダトクゾウ} 篠田徳三	文芸社	* 喉頭がん	2004
105			は	^{ハハ オレ} 母はボケ、俺はガン 二世世代倒病 ^{ニセダイトウビョウ テ} 顛末記	^{セキネ ススム} 関根進	日経BP社	突然の癌宣告、入院。さらに時を同じくして老いた母が老人病院に…。姑の介護をしながら夫を支えた妻、そしてメール仲間たちが仕掛けた、「泣き笑いの癌病棟脱出劇」とは? そして「奇跡」が…。	1999
106			ひ	^{ヒデヒコ アイ} 英彦、パパ愛してる	^{マツモトヨシコ} 松本佳子	日本放送出版協会	天才的なサックス・プレイヤー松本英彦の後半生を、彼に寄り添うように生き、二度にわたる病魔との闘いにも共に挑んだ夫人の視点で描くノンフィクション。栄光のジャズマンを支えた夫婦愛。	2003
107					^{ヒト シ} 人が死ぬるということ	^{イケガメ ミツコ} 池亀光子	新風舎	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
108	食道がん		ぼ	ボク ^{ゲンキ} 僕は ^{カンジャ} 元気なガン患者	ガツラユキ 角行之	医療文化社	* 咽頭がん、胃がん	2008
109			め	ワタクシ ^{ショクドウ} ショクドウ ^{シュジュツタイケン} 私の ^{タイケン} 食道手術体験	ゴトウメイセイ 後藤明生	中央公論社		1990
110			も	もういちど ^{アイ} 愛たい	カワムラトシコ 河村淑子	中日出版社	* 胃がん	1986
111			わ	わたしは ^{ソングンシ} 尊厳死 ^{エラ} を選んだ ^{ガン} に ^イ 生きた ^{ニチ} 900日	サイゴウヒデオ 細郷秀雄	講談社		1993
112	消化管	胃がん	あ	アイ ^{ミツケタ} 愛を ^{ダイスケ} 大助 ^{ハナコ} ・花子のおや ^{ニッキ} オヤ日記	ミヤガワ ^{ダイスケ} 宮川大助 ミヤガワ ^{ハナコ} 宮川花子	朝日新聞社	人気の夫婦漫才の大助・花子が、ガンと闘った5年間の日々。子育て、家庭、仕事などについて、明るく、あっけらかんと綴った家族愛の物語。	1994
113			あ	あなたにあえてよかった	オオウラシズコ 大浦静子	北國新聞社	がんが再発した大浦郁代さんは、大切な人たちを訪ねる「お別れの旅」をし、遺書を書き、「ありがとう」の言葉を残して34歳で旅立った。郁代さんの母である著者が、思い出の日々や亡くなるまでの姿を綴る。	2006
114				「ありがとう」と「さようなら」の旅立 ^{タビ} たち	ウカジナオコ 宇梶尚子	燦葉出版		2006
115				いい人は ^{ヒト} ガンになる	ヨシカワ ユウイチ 吉川勇一	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。* 膀胱がん	1999
116				生きて、還りぬ。 ^{インチョウ} がん院長、 ^{シンコウイ} 進行 ^{トモ} 胃がんを友に ^{ネン} 14年	ハラケイチ 原啓一	集英社	突如“がん”を告げられた時から、克服しそして最前線に復帰するまでの心の揺れを、患者として、医師として、ポスピス運動家としての三つの角度から照射する貴重な啓蒙書。	1993
117			いのちの ^{ジュギョウ} 授業 ^{タタカ} がんと闘った ^{オオセコ} 大瀬 ^{ウチョウ} 校長の ^{ロクネンカン} 六年間	カナガワ ^{シンブン} 神奈川新聞 ^ホ 報道部	新潮社	新設校の校長として進めた斬新な学校創りが、教育界に旋風を起こした。全国から見学者が訪れ始めた矢先、突然の末期がん宣告…。教育への熱き思い、迫りくる死の恐怖…。『神奈川新聞』連載を再構成、加筆し単行本化。	2005	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
118	消化管	胃がん	い	イ キ ナカマ イセツコウイシヨウ 胃を切った仲間たち 胃切後遺症 ヨクフクホウ とその克服法	マスダ カズヒコ 升田和比古 ケンイ カイ 健胃会監修	桐書房	数十万人の全国胃切者への応援メッセージ! 食事の工夫、日常生活の改善、病気予防とその対応など、体験をもとにしてまとめた、胃切後遺症克服のバイブル。90年刊の続編。	2003
119			え	ジテンジャ サイアイ アネ えみちゃんの自転車 最愛の姉を ウバ ガンが奪って	フルタチ イチロウ 古館伊知郎	集英社 (集英社文庫 は1994)		1991 1994
120			お	オオソラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ ニュ 大空真弓、「多重がん」撃退中! ウ イ ショクドウ 乳がん胃がん食道がん	オオソラ マユミ 大空真弓	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い! * 食道がん、乳がん	2005
121				トウ タカ お父ちゃまの闘い	オマトヨシフミ 小俣好文	神奈川新聞社		2001
122			か	カミ ホトケ カンゴフ 神さま、仏さま、看護婦さまー。	タカハシ コウイチ 高橋浩一	日総研		2000
123				オオハシ キョセン バアイ がん 大橋巨泉の場合	オオハシ キョセン 大橋巨泉	講談社	「リッパな癌です」と医者は言った。「癌に対する無知や誤解や偏見」に対して、体験者の立場から明らかにするべく、手記の形式で自らの体験を赤裸々に綴る。附録に、部位別の癌の専門医500を収録。	2005
124				カンジャ ビョウイン オクリモノ がん患者から病院への贈物 やさ カンジャ セツグウ テビ しい患者接遇の手引き	ハナサト ケイ 花里恵	照林社		1990
125				ガン カンジャ ニツキ 癌患者の日記	オクモト コウ 奥本康	文芸社	* 大腸がん	2004
126			が	セイカツシャ ニチ がん生活者の730日 2002-2004	ソダ ヒデヒコ 曾田秀彦	西田書店		2007
127				ガン タタカ センリュウランギョクシュウ 癌と闘うーユーモア川柳乱魚句集	イマガワ ランギョ 今川乱魚	新葉館出版	喪った臓器をさがす人体図 腸健気先立たれた胃の代わりして 十年は生きて手術の元を取る 笑い療法でがんに立ち向かう、ユーモア川柳で綴るがん闘病140日。	2003
128				ジブン イ ガンも自分いのちを生ききる	ササザワ サホ 笹沢左保	海竜社	死は生の一部。人は燃えて生きるべし。人生は死ぬ時までの暇つぶし。自らのガン体験を通して人気作家が書きおろす、生きることの価値、死ぬことの意味。与えられた命に対して真正面から目をむけて、すべての人におくる。* 舌がん	1994

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
129	消化管	胃がん	が	がんを友に生きる 空蟬橋を渡ったジャーナリスト	マツイジュイチ 松井寿一	元就出版社	「がん」と知らされたときは「まさか」と戸惑い、「どうすりゃいいんだ」と途方にくれた。しかし「自分は医療ジャーナリストだ」と気を取り直した…。がん発病から手術、退院、そして現在まで、自身の一部始終を克明に綴る。	2005
130			き	キムラセイイチ 木村誠一さんの生涯と『真楽記』	アサノジュンイ 浅野純以編	自照社出版		2002
131			こ	コクチ ゲカイ ミズカ ジッセン ツマ 告知 外科医自ら実践した妻への ガン告知と末期医療	クマサワケンイチ 熊沢健一	PHP文庫		2004
132				コクチ テンゴク ツマ 告知せず 天国の妻へラブレター	ニシエヨウジ 西家洋治	近代文芸社	4人に1人がガンで死ぬ時代、ガンの罹病がもし愛する貴方の家族だったら…。末期ガンで余命3カ月と宣告された妻の、発病から死去までを綴ったエッセイ。	2001
133				これからだよ ガンとともに生き抜いたパパへ	サルワタリケイコ 猿渡啓子	新風舎		2006
134			さ	サドン・デス	アラキケイイチ 荒木啓一	鳥影社		2000
135				サンドメ 三度目のガンよ、来るならごゆるりと	ウメハラタケシ 梅原猛	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。* 大腸がん	2001
136				サンモン カンジャ 三文ガン患者	タニオカマサキ 谷岡雅樹	太田出版	へい、ドクター！ 教えてくれよ、真実を!! 『Vシネマ魂』で知られる映画評論家が、「32歳・胃の全摘手術」という体験の中から叩きつける、旋破りの闘病レポート。	2001
137				シ タイジ タイヨウ カタ 死と対峙し太陽と語る	タケウチノボル 竹内昇	日本図書刊行会		1997
138				シヨウセツ 小説「なんでやねん」と虫が笑く	さくらいひでお	文芸社		2008
139			し	シ 知りたがりやのガン患者	タネムラコ 種村エイ子	農山漁村文化協会	進行性胃ガンと診断され、全胃摘出手術を受けた著者が、自らの体験を明るく語る。「こわがりのくせに知りたがりやの、やっかいなガン患者」が、いかにして信頼できる医師・治療法に出会ったかを克明に綴る。	1996

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
140	消化管	胃がん	ぜ	ゼンリヤク がん患者様 ベテラン患者 より、元氣の出る壺を一席	ショウフクテイ コマツ 笑福亭小松	PHP研究所	「病氣」になっても「病人」になったらあきません…。進行性胃がん と診断された著者が手術後、「5年生存率15%」という絶望と自棄の 境地を経て8年。ベテランがん患者からの元気になる涙あり、笑い ありの熱いメッセージ。	2005
141			そ	そして、君はそよ風になった 妻の ガン死をのりこえて-僕と娘の物語	クワハラ シゲキ 桑原繁樹	展望社	幼い娘と僕は毎日、涙の川を懸命に泳ぐ。いつになったら向こう岸 に着けるのだろうか…。ガンで妻を失った夫とその娘が絶望から立ち 直るまでの魂の記録。	2008
142				タクケン 拓健パパの傷病休暇	イワモト カズナリ 岩本和成	新風舎		2003
143			た	タジュウ 多重がんを克服して 体験的治療 ガク学	タイケン テキ チリョウ 黒川宣之	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん 医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。 『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療 学」に加筆して単行本化。* 大腸がん、前立腺がん	2006
144			ち	チチ オ 父、卒わる 三時三十七分四十秒	ツルイ ミチマサ 鶴井通真	講談社		1991
145			つ	ツマ 妻の大往生	エイ ロクスケ 永六輔	中公文庫		2005
146			と	トオル、君を忘れない 森徹のオリ ンピック	シミズ コウイチ 清水浩一	ポロンテ。	最高の舞台を目前にして、天才モーグル・スキーヤー森徹に突き つけられたのは絶望的な「がんの宣告」だった。ソルトレーク・オリ ンピックをめざし、病魔に立ち向かったトオルの魂は家族と恋人に 支えられ、最後の輝きを放つ!	2002
147			な	ナミダ 涙のアンパンマン・マーチ	ハラシマ クミコ 原島久美子	書苑新書	死を見据えながらも前向きに。スキルス胃癌で亡くなった、3児の 母親の闘病日記。人は死を見据えつづけながらもこれほど前向き に可能性を追い求めながら生きることが出来るのです。	1995
148			ひ	ヒカリ 光	ヒサマツ 久松ゆり	本の森		2003
149			び	ビョウシツ ユメ オ 病室から夢を追って 熟年パソコン オタクの胃がん闘病記	タグチ カズオ 田口和男	里文出版	「電車男」ならぬ「胃がん男」が、ソーシャル・ネットワーキング・ サービスのコミュニティーに参加し、オンライン仲間との対話を中 心に、病室で描いた夢を求めた闘病記。体調不良を抱える中高年 に勇気と希望を与える書。	2007

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
150	消化管	胃がん	ふ	フウフ 夫婦でがんになりました…	カラムスウ 唐麻好	中経出版	* 肺がん	2007
151			ほ	ホスピスで ^{ヤス} 安らかな ^{タビダ} 旅立ち	ウスダケイコ・キヨジ 臼田敬子・喜代二	郁朋社		2004
152			ぼ	ボク ^{ゲンキ} 僕は ^{カンジャ} 元気なガン患者	カドツラユキ 角行之	医療文化社	* 咽頭がん、食道がん	2008
153			ま	マツキ 末期ガンになったIT社長からの手紙	フジタケンイチ 藤田憲一	幻冬舎	若手IT社長の著者が突然受けた「余命3カ月」の宣告。絶望と戦いながらも、幸福とは何か、死とは何かを考え続け、残された人生の総仕上げにかかる。闘病生活の中で書き下ろされた一冊。	2006
154			み	ミズ ^{カンジャ} 自らが ^{ワタクシ} がん患者となつて ^イ 私の ^{ゼンテ} 胃全摘とその ^ゴ 後: ^{ケンキウ} がん研究と ^{リンショウ} 臨床の ^{アス} 明日に ^{オモ} 想いを ^{イタ} 致す	スギムラタカシ 杉村隆	哲学書房	ひとは、自らのがんを知った時、何を感じ、何を考えるか。がん研究の第一人者である著者が、自らの胃がん全摘手術とその後を冷徹に解析し、研究と臨床に結んで行く、たぐいまれな精神の記録。	2005
155			も	アイ もういちど愛たい	カワムラトシコ 河村淑子	中日出版社	* 食道がん	1986
156			ゆ	ユウシュウシ 有終の死（魅力学シリーズ）なぜ こ ^{ココロオダ} うも心 ^シ 穏やかに ^{ムカ} 死を迎えられたのか?	シムラトシユキ 志村利之	プロスパー出版	日々新たな命の誕生に接していた産婦人科医が、自分自身の肉体が末期のガンに冒され、死が近いこと知った。人間の永遠のテーマである「生」と「死」という重い事実を、淡々と冷静に、しかも洒脱に描いた魂の記録。	2000
157			わ	ワガハイ 吾輩はがんである	ショウフクテイ コマツ 笑福亭小松	講談社	「時間をください。まだ小さいうちの子が、おとなになるまでとは言いません…」5年生存率が15%の末期がんを、ファイティング・スピリットで克服。落語家として、父として、夫として、刻み続けた5年間の心の軌跡。	2002
158				ワタクシ ワタクシ 私は私でありたい ^{エイエン} 永遠の ^{サイ} 18歳からのメッセージ	タカキフミサ 高際美佐	PHP研究所	急速に進行するガンが若い肉体を蝕む中、どんな痛み、苦しみにも絶望せず、周囲の人に生きる勇気を与えつづけた少女。18歳でこの世を去るまでに彼女が遺した感動の記録。	2000
159				十二指腸がん	コクチ 告知せず	コザイレイコ 古財麗子	文芸社	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
160	消化管	小腸がん	け	ケイサツカンリョウ トウビョウ 警察官僚ガン闘病ブログ	モリザネ サトル マキ 森實悟・満紀 カワノコウイチ 河野浩一編	中経出版		2007
161		小腸肉腫	お	カゾク おれたちは家族	オオハラケンシロウ 大原健士郎	朝日新聞社		1989
162		大腸がん	あ	ありがとう順ちゃん そして3人の息 スコ子へ	オチアイキヨミ 落合喜代美	新風舎		2006
163			い	イ ツ ヒト ゼンジン ショウセツカ イノウエミツ 生き尽くす人 全身小説家 井上 ハルニチ 光晴のガン1000日	ヤマカワ アキラ 山川暁	新潮社	己の文学のために、ガンを運命として受容することを拒み、敢えて闘病者の道を歩んだ「最後のプロレタリア作家」の肖像。冷静な筆致に深い共感を込めて描く、1000日の生。	1997
164			い	イ ヒヤクハチジュウニチメ ソラ 生きる。一八〇日目のあお空	ヨシタケテルコ 吉武輝子	海竜社	自然気胸、肺気腫、難病の膠原病、そして大腸がん。どんなときもかっこよくハードルを越える! 勇気と希望をはたはたと掲げながら生きてゆく、人間としての存在の孤独を綴る。	2006
165			い	イシヤ ガン 医者が癌にかかったとき	タケナカフミシ 竹中文良	文春文庫		1994
166			い	イシヤ ガン 医者が癌にかかったとき 続	タケナカフミシ 竹中文良	文藝春秋	自身の術後9年間、患者から学んだこと、癌治療と医療現場のいま…等々、医師生活40年の日赤医療センター外科部長が、激変する医療の現場での想いを綴ったエッセイ・レポート。	1995
167			い	イッショ トシト ツマ 一緒に年取れずにごめんね 妻が カンジャ がん患者になったとき	シミズミツオ 清水光雄	小学館	人はこんなにたくさんの悲しみにも耐えられる。サラリーマンを支える妻が、突然病で倒れたら…。新聞記者の夫が、仕事・愛・死を見つめ、家族で闘った636日のがん闘病記。	1999
168			か	カイフクシツ オット マツキ 回復室Bのドア 夫が末期ガンに なったとき	えずみなお	風塵社	幸せな家庭を襲った夫のガン。宣告、手術、転院そして別離へと向かう壮絶な5ヶ月間の闘病生活を、妻の視点から描く。残された者の癒しの過程としても、貴重な記録である。	2003
169			が	ガン カンジャ ニッキ 癌患者の日記	オクモトコウ 奥本康	文芸社	* 胃がん	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	
170	消化管	大腸がん	が	がん ^{ユクチ} 告知 ^ト —解けなかったパズル	オノアツコ 小野厚子	立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993	
171				がん ^マ に負けてたまるか	ヨコツカ タカシ 横塚隆嗣	桐書房	肺がん、大腸がんと闘いながら、患者会活動を通じて同病の仲間たちを励まし続けた半生記。がんの発見から手術、術後の自己管理まで、がんを克服した患者ならではの体験を紹介する。* 肺がん	1999	
172				がん ^{ニッキ} フーフー日記	カワサキ 川崎フーフ	小学館	妊婦の妻の直腸がん発覚から、帝王切開で長男を出産し、闘病生活の末38才の若さで亡くなるまでをまとめたリアルドキュメント。ブログに大幅加筆・改稿して書籍化。	2011	
173				ガン ^{ツマ カエ} よ妻を返せ	デンヨウノスケ 田妖之介	近代文芸社		2004	
174				がん ^{ロツカイ ジンセイゼンカイ ゲンエキ} 六回人生全快 現役バンカー ^{ネン トウビョウキ} 16年の闘病記	セキハラ タケオ 関原健夫	朝日新聞社	39歳で大腸がんの宣告を受けて16年。6度のがん手術に耐え抜き、社会の第一線で活躍しつづける現役の銀行役員が明かす闘病記。主治医3人との座談会も巻末に収録。『論座』連載の単行本化。	2001 2003	
175				き	キャンサー・ギフト ガン ^シ で死ねな かったわたしから元気 ^{ゲンキ} になりたい あなたへ	タカハシ 高橋ユリカ	新潮社	わたしは35歳で自分のガンを知った。手術後の抗ガン剤の副作用に悩み、気功を始めた。自然治癒力を求めて食餌療法など様々な体験をし、確かな情報を得て、自分の物語を紡いでいく事に癒しをみつける。	1995
176				ぐ	Grow up ^{ハハ カゾク トウビョウセイカツ} 母と家族の闘病生活 ^{ジツタイケン} 実体験	ハセガワ チサ 長谷川知沙	愛生社		2001
177				さ	さよなら さよなら さようなら	タナカミチコ 田中美智子	あけび書房	私、ガンです。でも、元気! 2003年秋、医者から「死の宣告」を受けた著者。ところが1年をとうに過ぎてても気分爽快、食欲旺盛、死の準備は着々とすすみ…。大活躍の元国会議員がつづる、痛快洒脱なエッセー集。	2005
178					^{サンドメ} 三度目のガンよ、来るならごゆるり と	ウメハラ タケン 梅原猛	光文社	二度のガンは私に多くのことを教えた。そのガンによって私の人生を見る目が、前と比べてはるかに透明になったことはまちがいない。ガンはありがたい収穫を私にもたらしたのだ。大腸ガン、胃ガンを克服した著者が語る。* 胃がん	2001

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
179	消化管	大腸がん	し	シ ^{ツマ} にゆく妻との旅路 ^{タビジ}	シミズヒサリ 清水久典	新潮文庫		2003
180			し	手術も抗ガン剤も断って ^{キセキ} 奇跡の ^{ダイ} 大腸ガン闘病記 ^{トウビョウキ}	ナカノキクコ 中野きく子	潮文社	大腸ガンを宣言された患者が、医者 ^シ の勧め ^メ る手術 ^カ を断 ^ツ って退院 ^シ し、一家 ^ケ をあ ^ゲ ての玄米 ^ク 菜食 ^シ を中心 ^ト とした自宅 ^カ 療法 ^ホ で、見事 ^ニ に難病 ^ヲ を克服 ^シ したガン闘病記。手術 ^ト と抗ガン剤 ^ト 偏重 ^ノ の今日 ^ノ の医療 ^ニ に一石 ^ヲ を投 ^ズ る貴重な記録 ^デ ある。	1992
181			す	ステージ4 ^{センコク} を宣告 ^シ されて その愛し ^{イト} き日々 ^{ヒビ}	タカハラ 高原レイミ	ほおずき書籍	ガンの予兆 ^ノ の発見 [、] 告知 [、] 手術 [、] そして転移 […] 。ガンの手術 ^ヲ をした著者 ^ガ が病氣 ^ヲ を抱 ^エ ながらも自然 ^ト とともに生きる姿 ^ヲ をユーモア ^ヲ を交 ^エ て描 ^イ いた闘病記。同じ病氣 ^ヲ で悩 ^ム 人 ^ヘ の応援 ^メ ッセージ。	2006
182			た	多重 ^{タジュウ} がんを克服 ^シ して 体験 ^ク 的治療 ^{テリョウ} ガク ^{ガク} 学 ^{ガク}	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	金曜日	著者 ^ノ の前立腺 ^ガ ん、大腸 ^ガ ん、胃 ^ガ んの治療 ^ニ 体験 ^ヲ を中心 ^ト に、がん医療 ^ノ の現状 ^ヲ を取り上 ^ゲ る。貴重な「用心 ^ト と安心 ^ノ のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載 ^サ れた「多重 ^ガ んに見舞 ^ワ れて 体験 ^ク 的治療 ^学 」に加筆 ^シ て単行本 ^ト 化 ^ス 。* 胃 ^ガ ん・前立腺 ^ガ ん	2006
183			だ	断腸 ^{ダンチョウ} の思い ^{オモ} エレキ ^{カミサマ} の神様 ^{ダイチョウ} 、大腸 ^カ ガン ^カ に克 ^ツ	テラウチ タケン 寺内タケン	マキノ出版	「エレキ ^ノ の神様 ^ヲ 」を襲 ^ツ った大腸 ^ガ ん。ガン ^ヲ を機 ^ニ に自分 ^ノ の体 ^ニ について考 ^エ 、わかつたのは「ギター ^も 体 ^も 手入 ^れ 次第 [」] という事。明る ^ク 健康 ^{管理} を説 ^ク 「病氣 ^ト と闘 ^わ ない」闘病記。執刀 ^医 による「大腸 ^ガ ん ^ノ の見 ^つ け方 ^ト と治 ^し 方 [」] も収録。	2004
184			ち	Chedi ^{チエディ} の闘病日記 ^{トウビョウ ニッキ}	クサフカ テホ 草深智穂	文芸社		2005
185			て	天国 ^{テンゴク} から届 ^イ いた年賀状 ^{ネンガジョウ} 「がんと ^イ 生きる」十年 ^{ジュウネンカン} 間の軌跡 ^{キセキ}	ハシバヒトシ 羽柴整	中日新聞社	中日新聞記者 ^ノ の著者 ^ガ が、進行 ^ガ んと闘 ^い 続 ^け た十年 ^ヲ を、鋭 ^イ 観察 ^力 と冷静 ^ナ 筆致 ^ヲ で活写 ^シ た闘病記。中日新聞紙 ^上 に60回 ^連 載 ^シ し、「がんと生きる」として3冊 ^発 行 ^シ たもの ^ニ に亡 ^ク なるまでの原稿 ^等 を加 ^え る。	1999
186			は	破 ^ハ ガン ^{イッショウ} 一笑 ^{ワラ} 笑い ^{ヨボウヤク} はガン ^ノ の予防 ^薬	ミナミ 南けんじ	主婦の友社	ビート ^ヲ たけしのかつての師 [、] 南 ^{けん} じは、ガン ^ヲ をネタ ^ニ に高座 ^デ で笑 ^い をとり、ひいき ^ノ の客 ^ト とガン ^ヲ を肴 ^ニ に酒 ^ヲ を飲 ^み 、大笑 ^い 。医者 ^ハ は、まさ ^ニ にガン患者 ^ノ の手本 [、] 笑い ^ハ はガン ^ノ の予防 ^ト と進行 ^ヲ を抑 ^え るから、と云 ^う …。	1997
187			ま	まだ、最悪 ^{サイアク} なんかじゃないよ	ひろっちゃん	中央アート出版社	あまり ^ニ も突然 ^ノ の「余命 ^宣 告」。平凡 ^ナ なサーファー ^ハ はそのとき ^カ らほんとう ^ニ に「生きる」こと ^ヲ はじめた。2003年4月 ^カ ら2005年2月 ^マ まで著者 ^ノ のホームページ ^ニ に掲載 ^サ れた日記 ^や 詩 ^ヲ を加筆 ^{修正} して単行本 ^ト 化 ^ス 。	2005

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
188	消化管	大腸がん	や	ヤクソク マツキ チチ カゾク ノコ 約束 末期がんの父が家族に残した	タカハシ ヒフミ 高橋一二三	小学館文庫		2001
189				ヤマザクラ チ アサ シンブン キンヤ 山桜、散る朝 ある新聞記者のが トウビョウキ ん闘病記	モミ コ 粃とし子	あさんてきーな	「ごめんね、強くなって君を守らなければいけない僕が、こんなビニャビニャになって」そう言い残して夫は死んだ。夫の葛藤、妻の叡知、そして離島医療への提言。南海日日新聞記者・粃芳晴の闘病生活を妻が克明に綴る記録。	2004
190				ヤ オ ジダイ イ 病みながら老いる時代を生きる	ヨシタケ テルコ 吉武輝子	岩波ブックレット	高齢化の時代、病気との共存はそれなりに覚悟せねばならないが、そのうえで、自分らしく生きるには? 「病気のデパート」である著者が体験から伝える、病気との付き合い方。	2008
191				ヨメイ ハントシ 「余命半年」そして我が妻・由紀 ツル マ タ 子は鶴のように舞い立った	シバコウヤ 柴孝也	悠飛社	東京慈恵会医科大学に勤務する著者の妻の、2年にわたる大腸癌の闘病記。突然のガン発覚から終末まで、自らと妻の歩みをつづる。	2004
192				ワタリ テツヤ オレ 渡哲也 俺	カシワギ ジュンイチ 柏木純一	毎日新聞社	人生なんて、言ってみれば流れる雲のようなもの。則天去私ですよ。がんの大手術から6年、寡黙な男、渡哲也はなぜ今、自らをさらけ出し半生を赤裸裸々に語るのか。初めて明かされる衝撃の事実。	1997
193				Xからのプレゼント 癌告知の果てに	はまの鶴子	東京図書出版		2006
194	大腸がん (虫垂がん)	が	ガンから始まる	キンモト ヨウコ 岸本葉子	晶文社	40歳、独身。著者は虫垂がんを診断された。しかも、S状結腸に浸潤。約2年経つが、再発の不安は消えない。サポートグループに入会、漢方、食事療法、行動療法…がんを受容しながらも希望を捨てない。渾身のがん闘病記。	2003	
195			ガンへの手紙	テラマツ タカシ 寺松隆	新生出版	命の輝きは魂から発散される光の奔流である。盲腸にできたガンを見つめつつ、闘病記、体験記とは一線を画した、思想的考察と自己止揚を目指す、ガン不闘宣言の書。	2003	
196			シ シジュウ 四十でがんになってから	キンモト ヨウコ 岸本葉子	講談社	女ひとり暮らし、頑張ってきたが、40歳でがんになった。あとは、がんといかに仲良く付き合いっていくか…。のんびりほんわか奮闘記。『文藝春秋』等に掲載されたものを一冊にまとめる。	2006	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
197		大腸がん (虫垂がん)	ひ	ヒト シ 人は死ねばゴミになる	イトウシゲキ 伊藤栄樹	小学館文庫		1998
198			う	うすむらさきのスイートピー	ホリエタカコ 堀江孝子	日本図書刊行会		1997
199			お	トウ タイヨウ お父さんは太陽になった ガン闘 ウ ニチカン キロク 病47日間の記録	ひらたまどか	新風舎	最後に残ったのは、愛でした。働きざかりの夫にくだされた、突然の末期ガン宣告。その日から、36歳という若さでこの世を去るまでを、全力で闘いぬいた夫婦、家族の絆。47日間を妻が綴る。	2005
200			し	シタマチ アカ センセイ ガン イ 下町の赤ひげ先生いま、癌を生き る	キノシタ シゲタロウ 木下繁太郎	桐書房	医師自らが癌を病んだとき、どう病と向き合ったか…早くから西洋医学と東洋医学の合作医療に挑み漢方治療の大衆化に尽力した著者が、いま、死を抱きしめつつ綴る、未病を治す医療に賭けた半生と最新の癌治療体験記。	1993
201	消化管	大腸がん (結腸がん)	は	ハナ ツボミ タオ ムスメ チンコン 花の蕾 がんに倒れた娘への鎮魂 キ の記	トラタニ アイコ 虎谷愛子	里文出版	「蕾は小さな幼い子供と同じ、いつかはすばらしく成長し、開花するのよね……」27歳でがんに倒れた娘の、萌え出づるような輝きを見せていたその面影、精一杯生きていた存在感を書留めた鎮魂の記。	2003
202			ほ	ホタルの ニッキ 日記 わが子に伝える命 エピソード の終章	ナカムラ ミツヨ 中村光代	エフエー出版	お母さんが、最後に教えてあげられるのは、人間の命の終わり…。しっかり見てね。-尊厳死を望んだ末期ガンの母親が幼いわが子に伝える自らの「生」と「死」。揺れ動く心を素直に綴る一冊。	1993
203				ほんとうに知りたいこと ガンをの サイショノイチネン りこえた最初の一年	マック・ター ネイジ アン・ター ネイジ	日本基督教団 出版局	ガン告知を受けた後の不安と緊張、苦しみにあっても愛する家族友人に支えられながら、信仰、希望、ユーモアを失わずに生き抜いた感動の一年。ガンと共に歩み続けた妻とその夫の記録。	1996
204			も	モ 燃えるがごとく、癌細胞を焼きつく す	ナガオ ヨツコ 長尾宜子	三五館	1993年、横行結腸ガンを告知され、それから3年間に7度の大手術を受けた著者によるガン闘病記。ガンと闘う権利、医師、精神のノウハウを凝縮した命の対話。巻末に著者作成の「病歴一覧表」付き。	1997
205		大腸がん (直腸がん)	い	キミ イッシヨ いつでも君と一緒に	アマツアキラ 天津章	碧天舎		2005

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
206	消化管	大腸がん (直腸がん)	う	うさぎよ永遠に ガンに命を奪われ た歯科衛生士・三宅貴子「二百十 日の闘病日記」	三宅貴子 三宅参衛	鶴書院	ガンと闘い抜いた娘の克明な日記を中心に、病床での明け暮れを、時にはユーモアさえ湛えて綴った感動の一書。「娘の死闘を通してガンは必ず治ると確信した」と語る父親が、ガンに打ち勝つための挑戦を続けると誓う。	2004
207			お	鬼よ、笑え「旅の夏」「ガンの夏」 日記	小島直記	新潮社		1992
208			が	がん告知 解けなかったパズル	小野厚子	立風書房	生きたいと願っている夫に、事実を告げるべきなのか。夫は事実を知りたいと思っているのか。家族は…。ふつうの妻が、告知をし、死の準備に入る夫を、娘や義母とともに見守った哀切の記録。	1993
209			が	患者がケアを求めるとき	森文彦	近代文芸社		1996
210			き	消えろクソがん 日本一諦めの悪 い芸人の闘病日記	竹内ゆうじ	ヨシモトブックス	これほどまでに、明るく諦めないがん患者がいるなんて!! 関西で活躍する芸人・竹内ゆうじは、突然がん宣告を受けた。幼い子ども3人と愛する妻に誓った「生きる」という約束。笑い涙でいっぱい闘病生活を綴る。	2008
211			し	しあわせになろうよ 余命宣告6カ 月を克服した私のがんサバイバル 50の方法	関口哲平	徳間書店	大腸ガンが再発し、余命宣告6カ月を受けた。しかし不屈の闘志で克服し奇跡の生還を成し遂げる。死にものぐるいでガンと闘い、打ち克ち、生き還るまで。命がけで知りえた知恵と、サバイバル法を綴る。	2005
212				死の周辺	塩見鮮一郎	三一書房	57歳になって著者は初めて死を看取った。妻、エリ、46歳。著者は動転し、混乱し、判断停止にもなった…。4年近く妻の死について考え続けた視点で、告知から、入院、在宅ケア、ホスピス、別れの会までを語る。	1996
213			じ	人体実験 ガンとのたたかい、生と のたたかい	白井愛	れんが書房新社	ガン患者白井愛の、発病から最期までの4年にわたる壮絶な闘病記。自らの病を、ガン医療の実態を、生の意味とそのアポリアを、正面から見すえ検証し、そしてすべてを受けとめて果てた、激しくも透徹した魂のドキュメント。	2005
214	ば	薔薇色の塩	伏木田光夫	北海道新聞社		1998		

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
215	消化管	大腸がん (直腸がん)	ぼ	ボク アカ ショウガイシャ 僕は明るい障害者「がん」がくれ オク モノ た贈り物	サカイ マサト 坂井正人	アチーブメント 出版	32歳でがんを宣告され、骨盤内全摘出、大腸の40%を失い、人工 肛門・人口膀胱を付着する「第4級身体障害者」となった著者。が んの宣告から、がんとの闘い、そしてビジネスを始めるまでをポジ ティブに綴る。	2006
216			ま	マミー、そばにいて	フキカオル 冬木薫	日之出出版	「最期までプロレスラーでいたい」と、がんを背を向ける理不尽大 王・冬木弘道。最後のひと言を残し、「天国のリング」へ…。がんを 向き合った妻の壮絶看護11カ月。	2004
217			れ	レクイエム	タキモト サチエ 瀧本祥江	日本図書刊行 会		1997
218			わ	ワタクシ カンジャジュツ 私のがん患者術	イノウエ ヘイゾウ 井上平三	岩波書店		2002
219				わたし、ガンです ある精神科医の ウキ 耐病記	ヨリフジ カズヒロ 頼藤和寛	文春新書		2001
220	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん	あ	アイサイキ 愛妻記	シンドウ カネト 新藤兼人	岩波書店	妻の肝臓がんの手術が終わり、残り一年余の生命と告げられたと き、夫は妻主演の映画を撮ろうと決意した。火花を散らす二人の 老仕事師夫妻の凄絶な愛と慈しみの一年半を哀惜をこめて描く。 妻乙羽信子の一周忌に捧ぐ。	1995
221				あきらめるな！肝ガン患者 私を ミス ダイガクビョウイン スク ダイガクビョウ 見捨てた大学病院、救った大学病 院	タナカ コウイチ 田中孝一	コスモトゥーワ ン	画期的な肝ガン手術によって暗闇の中に一筋の光を見出した一 患者の体験談を縦軸に、現在最も進んでいるといわれている慶応 病院の肝ガン手術最前線を、体験した著者自身の眼を通してド キュメントタッチで描く。	2003
222				イ 生きてんの精いっぱいー人間・渥 ツミキヨシ 美清	シノハラ セイジ 篠原靖治	主婦と生活社	息を引き取るまでの14年間、渥美清と一心同体だった付き人が綴 る、最期の1400日間。四角い天使になった寅さんへの鎮魂歌。初 公開の秘蔵写真も多数収録した、涙と苦悩の記録。	1997
223				い	イ 生きる者の記録 佐藤健	サトウケン シュ 佐藤健と取 ザイハン 材班	毎日新聞社	末期がんにもむしばまれながらも、自らの「生」を最後まで冷徹に見 据えた新聞記者。自身の最期の1カ月を、湯治場や病床の風景と ともに記録する。『毎日新聞』で大反響を呼んだ魂のルポルター ジュ。* 食道がん

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
224	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん	い	いのちと生きる	シゲカネ ヨシコ 重兼芳子	中央公論社	突然のガン告知、手術、夫の急死…。ホスピス設立に力を注いできた著者が、自らの闘病体験のなかでみつめた生と死。いのちとは何かを問う感動の記録。『婦人公論』に93年6月～7月に「いのちの夕映え」と題し連載された後で加筆訂正したもの。	1993
225			う	ウバ アイ イノチ シンコン 奪われし愛と生命 「新婚さんい らっしゃい！」に刻まれたある夫婦 フ モノガタリ の物語	ナカイ カズオ 中井一夫 トダカ マユミ 戸高真弓美	出版文化社	ガンと診断され、余命半年と宣告されてからわずか137日。笑顔で亡くなったあの人は、何を残したかったのか。愛する人や子どもに何を伝えたかったのか。人気番組「新婚さんいらっしゃい!」で反響を呼んだある夫婦の物語。	2002
226			お	トウ お父さん！ガンと言えずに…	ワカハラ ヒトミ 若原瞳	近代映画社		1991
227			お	オレ シ 俺は死なんぞ！	ヤスハラ ノブト 安原信人	早稲田出版		2007
228			が	ショジュツ ニネンハン ガン手術そして二年半	アキヤマ ヒデオ 秋山秀夫	学生社	東京の大学病院で手術は無理、余命1、2年と宣告されたガン患者が、別の大学病院で肝臓ガンを手術。生還するまでの二年半を綴る。	1997
229			が	センキ マツキガン イン がん戦記 末期癌になった医師か らの「遺言」 ユイゴン	ミウラ ショウイチ 三浦捷一	講談社	末期癌にかかった元癌治療医の闘い、2000日の全記録。最新医療に置き去りにされる「癌難民」をなくすため、患者の生存権を求め「医療制度の壁」に挑み続ける。法と官僚を相手にした医師の闘いの日々を綴る。	2005
230			が	ニド がんよ、ありがとうがらし 二度の がん体験から見えてきたもの	オガタ マサコ 緒方真子	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 子宮がん	2000
231			が	キ マエ ヨ ホン イン タイケ ガンを切る前に読む本 医師が体 験した「切らない」新手術	マチヒデオ 町秀夫	光文社	「半年の命」と言われてからガンの克服法を研究し、生き延びてきた医師が、切らずにガンを退治する新しい手術の体験や、自分で実践したガン克服法、その背景となっている漢方医学の考え方を紹介する。	2000
232			が	セオ ガンを背負ったクリスチャン	タカハシ マサキヨ 高橋正清	碧天舎		2004
233			き	キセル 煙管	タカハシ サダユキ 高橋貞行	日本図書刊行会		1997

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
234	肝臓・胆 のう・膵臓	肝臓がん	き	キン・コン・ガン！ ガンの告知を受けては初期化された	フタナベ カズヒロ 渡辺和博	二玄社	自分はガンだ。だからガンを治さないとイカン。そう心に決めたら楽になった。パソコンを初期化したときと似たリセット感があった。ナベズ画伯こと渡辺和博の肝臓ガン闘病イラストエッセイ	2004
235			し	シアフ 幸せだったね、ハナちゃん	ノノヤマ ヨウコ 野々山葉子	扶桑社	素晴らしい夫だったハナ肇、その妻・葉子は夫のガンを知ったとき、悩んだ末最後まで隠し通すことを決意した…ガンとの闘いと苦悩の日々を綴った感動の記録。	1994
236			し	ガタカンエン シ C型肝炎では死なせない	アマノ ヒデオ 天野秀雄 アマノ フサコ 天野聰子	杉並けやき会	本人にまったく責任なく肝炎ウイルスに感染した全国350万人の患者。この人たちを死なせてはならない！ 最期まで肝炎対策を訴え続けた末期C型肝炎患者の闘病記。	2008
237			し	ガタカンエン イ ガタカンエン カン C型肝炎を生きる C型肝炎に感 染してしまった一人の看護師の闘 病記	オハラ カヨコ 尾原佳代子	ルネッサンス ブックス		2006
238			す	ゼンソウ イ アラカネ テンリン ロウシ 禅僧ガンと生きる 荒金天倫老師 の1、200日	スズキ シュウパン ヘ 鈴木出版編 集部	鈴木出版		1990
239			た	シガカネ ヨシコ たとえ病むとも	シガカネ ヨシコ 重兼芳子	岩波書店 (岩波現代文 庫は2000)	癌の告知から2年半、死の直前まで書き綴った、病院の日々、ホスピスや墓のことなど、悲しみを超えた感動の遺作。弱さや寂しさや孤独感を、限りない優しさにつつまこんで人々の心に希望の灯を点す。	1993 2000
240			び	ビョウシツ ダマ ハジ 病室のシャボン玉ホリデー ハナ 肇、最期の29日間	なべおさみ	文藝春秋	ザ・ピーナッツ、布施明らが病室で演じる「シャボン玉」のコント。そして「スターダスト」のメロディーが優しく流れ出す…。肝臓ガンで亡くなった俳優・コメディアンハナ肇の、激しくも哀しい最期を克明に綴る。	2008
241			も	イ ハッケツビョウ カンゾウ もっと生きたい 白血病と肝臓ガン で逝った夫とその妻の手記	ヨシノケイコ 吉野啓子	南雲堂	二人のために生きてという妻の手紙で堰が切れ 闇夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録 * 白血病	1999
242			よ	デア ユタカ よき出会い 豊	タチバナ ユウ 立華優	文芸社		2008

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
243	肝臓・胆 のう・膵臓	肝細胞がん	い	イシヤ サイハツ 医者がガンになった 再発しても ゼツタイ アキラ トウビョウロン 「絶対に諦めない」ための闘病論	カフサキ ヘイハチロウ 川崎平八郎	新風舎	「私はガンと共存して生きる」長年、原発性肝細胞ガンに苦しむ小児科医が、ガンについてめぐらせた考えや専門医との接し方、そして専門医の対応を受け止めたときの感情を綴る。	2007
244			え	エイチシーシー ウタガ カンサイボウ タタ HCCの疑いあり 肝細胞ガンとの カ 闘い	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	5年後の生存率50%以下、3年以内の再発率70%といわれるHCC(肝細胞ガン)と闘い続ける池田貴族による書き下ろしノンフィクション。検査、告知、入院、家族の動揺、手術、手術後の日々のすべてを語る。	1997
245			が	ガンに生かされて	イイジマ ナツキ 飯島夏樹	新潮社	フジテレビ系金曜エンタテイメントで放映された「天国で君に逢えたら」の著者が、余命宣告期限を超えて188日、最期まで綴りつづけた命の記録。新潮社ホームページ連載のエッセイに加筆・修正・編集して単行本化。	2005
246			が	ガンを生きる (幻冬舎文庫) ミュージシャンの孤独な闘い	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	「HCCの疑いあり」(1997年刊)の改題 闘病記:肝臓がん	1999
247			せ	セイタイ カンインシヨク ウ 生体肝移植を受けて (光文社新 ガンコクチ ハツビヤクヨンジウニチ タタカ 書) 癌告知から八四〇日の闘い	コレナガ ミエコ 是永美恵子	光文社新書		2003
248			た	タンジョウ 誕生	イケダ タカシ 池田 貴	幻冬舎	「ごめん…実は再発した。もし、もしも、おれが早く死んでも、子供をひとりで育てていく覚悟はあるか？」妻の妊娠中、まさかの肝細胞ガン再発から娘・美夕の誕生までを、人気ミュージシャンが感動的に綴る。	1998
249			み	カンサイボウ ム ア みたびの肝細胞ガンと向き合って	ヒロスエ ツトム 弘末勉	新生出版	63歳になるまで「肝細胞ガン」に3回も遭遇した9年間の闘病記。完治を願って、苦しみ、悲しみ、悩み、絶望しながらも「一日一生」の心で力いっぱい生きた日々の記録。	2004
250			よ	ヨメイ サンカゲツ 余命三ヶ月のラブレター	スズキ 鈴木ヒロミツ	幻冬舎	余命3カ月」の診断。それから考えに考え抜いたこと。最愛の家族、仕事、仲間、そして人生の意味。誰もが必ず直面する「死」を受け入れることとは? 最期に辿り着いた「人生の至福」とは? 感動のラストメッセージ。	2007

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
251	胆管がん		い	いのち ^{ニヒヤクニチ} 二〇〇日	ハナオカ ツギヨ 花岡次代	風の碑社		1995
252			た	旅 ^{タビダ} 立 ^{ツマ} った妻に、ごめんね、ありがとう	ヤガミカズシ 八神和敏	ジュピター出版		2007
253			り	胆管 ^{タンカン} がん ^{ホウロウキ} 放浪記	ニヤマ ツネヒコ 新山恒彦	毎日新聞社	毎日新聞記者であった新山恒彦の胆管がん闘病記。毎日新聞社のホームページ「毎日インタラクティブ」での連載に、闘病日記、さまざまな人々から寄せられた思い出などをまとめる。	2004
254			に	人間 ^{ニンゲン} らしい ^{サイゴ} 最期 ^{ムカ} を迎えたい	カノウ ミチコ 加納三千子	清風堂書店		2002
255			り	律子 ^{リツコ} 、病魔 ^{ビョウマ} と闘 ^{タカ} った千日 ^{センニチ}	アマノクニオ 天野國男	碧天舎		2004
256	肝臓・胆のう・膵臓	胆のうがん	そ	そして妻は「ハッピーっ」と言い遺 ^{ツマ} して ^{イノ} 逝 ^ノ った	スゴウアキオ 周郷頭夫	主婦の友社	妻があと3カ月の命と知ったとき、夫は、家族は何ができるだろう…。術後から最期を迎えるまでの11カ月間、がん性疼痛に苦しめられ、時に絶望しながらも自分と闘い続け、臨終の床で「ハッピーっ」と言い遺した妻の闘病記。	2005
257	膵臓がん		あ	愛 ^{アイ} すれば ^{ヨクチ} 告知せず	シヨウノ コ 庄野ひろ子	小学館	私たちには、死をお互いの間に挟んで笑いながら暮らせる自信はない。父に最後まで希望を持って病氣と闘ってもらうため「非告知」を選択した著者が綴る、感動的家族愛の記録。	1999
258			い	ある日突然、末期癌 ^{ヒトツゼン} と知 ^{マツキガン} って	ヨコヤマ クニヒコ 横山邦彦	碧天舎		2004
259			い	医師 ^{イン} が患者 ^{カンジャ} になるということ	ナベシマ ユウジ 鍋島祐次	新風舎		2007
260			お	『覚えていてくれよ』父 ^{オボ} ・健太郎 ^{チチ} の ^{ケンタロウ} 尊 ^ソ 厳死 ^{ンゲンシ}	コガ ジュンコ 古賀順子	健友館	日本を代表する生理学者として日本尊厳死協会の設立に力をついた高木健太郎氏が、ガンに冒され自らも尊厳死を選びとるまでを描いたドキュメント。	1993
261			か	語り部 ^{カタ} 歌人 ^{ベカジン} 鳥海 ^{トリノミアキコ} 昭子の ^{ニユ} ほんのり ^{ウインキ} 入院 ^キ 記	トリノミアキコ 鳥海昭子	本の泉社	膵臓十二指腸切除にいたる入院は著者にとって最初の、断崖に追いつめられた状況であった。心の、肉体の、内観を通して、生きる姿勢をただしてみたいという思いで書き始めた闘病エッセイ。	2003

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
262	肝臓・胆 のう・膵臓	膵臓がん	が	ジョウズ ガンと上手につきあいなはれ	クロダ キヨシ 黒田清	徳間書店	体内に巣食うガン細胞にユーモラスに語りかけ、なだめ、ときに罵りながら「上手につきあい」続けた、感動のドキュメント。1999年11月から2000年6月まで『アサヒ芸能』に連載されたものを中心にまとめる。	2000
263			ビョウトウ ガン病棟のピーターラビット	ナカジマ アズサ 中島梓	ポプラ文庫		2008	
264			サイゴ ジュギョウ イノチ 最後の授業 ぼくの命があるうち に	ランディパウ シュ・ジェフ リーザス	ランダムハウ ス講談社	2007年9月18日、カーネギーメロン大学教授ランディ・パウシュが「最後の授業」を行った。癌により余命半年足らずと宣告をされた彼が残したメッセージとは。講義のキーワードをまとめた記録。DVD付き版も同時刊行。	2008	
265			最善は尽くされたか	鎌田英治	工文社		1999	
266			シチヘイ タカ 七平ガンとかく闘えり	ヤマモト コ 山本れい子 ヤマモト ヨシキ 山本良樹	ベストセラー ズ	ガン、そして再発。刻々と忍びよる死に、目をそむけることなく立ち向かった山本七平。冷静なる「評論家」の仮面を脱ぎ捨てて「死」の威力と闘う様に、妻と息子はその人の真実の姿を見た。	1994	
267			チチ カゼ そして父は風になった	イヌズカ クミコ 犬塚久美子	近代文藝社		1994	
268			テディベアがはこんだ夢	カスガ ユキコ 春日幸子	講談社	「親切な方へ。ガンで亡くなった父の代わりにこのぬいぐるみに旅をさせてあげてください。」と書かれた手紙を持って、テディベアのマックの世界旅行は始まりました。99年刊の単行本に2002年までのことを加筆修正し収録。	2002	
269			テンイ 転移	ナカジマ アズサ 中島梓	朝日新聞出版	2009年5月26日、ガンのため56歳の生涯を閉じた中島梓=栗本薫。作家であり、主婦であり、母であった彼女が、2008年9月から2009年5月17日、意識を失う直前まで書き続けた闘病日記。	2009	
270			コウカンニッキ ガツ ニチ ふたりの交換日記は9月22日の パン オ たっちゃんの番で終わった	ミハラ ミズヨ 三原瑞代	日本テレビ	たっちゃん、涙を流して、「ごめんな」って、「ごめんな」って謝り続ける。謝る必要なんかないのに…。夫がガンに侵されたそのとき、交換日記は始まった。日本テレビ系『バラ色の珍生』で話題を読んだ自主制作本の再刊。	2001	
271			ワタクシ ノ ユイツ ミチ ホスピスが私に残された唯一の道 アイ ヒト ミト 愛する人を看取って	ナカムラ ヒロコ 中村浩子	海鳥社	膵臓がんでの手術、再発、転移…そしてホスピスでの最期。最愛の人との死別の痛みの中から、悲しみを分かち合う遺族の自助サークル発会への日々を綴る。	2000	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
272	肝臓・胆 のう・膵臓	膵臓がん	も	モルヒネはシャーベットで ^{イエ} 家で ^ミ 看取った死	^{ハタエノブコ} 波多江伸子	海鳥社	モルヒネのシャーベットは甘くておいしい痛みどめだった。母のすい臓がんの発症から死までの5か月間、「家で死ぬということ」について考えた著者による“優しい死”のすすめ。1992年刊の再刊。	1995
273			ゆ	ゆびきりげんまん ^イ ガンで逝った夫 ^{オット} と妻の“ ^ツ 恩愛の記”	^{タカハシエツシ} 高橋悦史 ^{タカハシミツヨ} 高橋光代	主婦と生活社	すい臓ガンであることを自ら公表し、人間の尊厳を問いかける壮絶な闘病生活を送った夫の姿を、妻の目から綴る。家族や友人にあてた手紙と、本人によるガン闘病日記も併せて収録	1996
274			よ	ヨメイ ^シ 余命を知った社長の ^{シャチョウ} く ^{チヨウナ} 超泣き ^{ワラ} 笑い ^ケ 経営日誌	^{ミヤワキジュンジ} 宮脇純治	明日香出版社	「長くてあと半年です」48歳の春の日の突然のガン宣告。そのとき人は何を考え、どう行動するのか。「うめぎとため息」を笑顔につつまみながら、経営の先頭にたちつづけた「パルポート」社長の手記。	2000
275	泌尿器	腎臓がん	い	いつのまにか朝日 ^{アサヒ} が ^{ガン} 癌という経験 ^{ケイケン}	^{タケダヒデオ} 武田秀夫	現代書館	ほんとうにぼくは、遠からず死ぬのだろうか…。癌の発病、そして入院。死の可能性に直面した時にどんなことを思い、どのように自らを支えようとしたかを、自らの体験から綴る。	1996
276			い	いのちの ^{カギ} 限りを ^{ニジュウ} 二重がん ^ヨ を超えて	^{クマガイサチコ} 熊谷幸子	海竜社	* 子宮がん	1988
277			が	ガンと仲良く生き延びようよ	^{コサカタダオ} 小坂忠雄	文芸社	2008	
278				ガンと道づれ	^{ハチヤアキコ} 蜂谷章子 ^{ハチヤタカシ} 蜂谷隆	明石書店	1992	
279				ガン・ ^{ノウシュケツツウビョウキ} 脳出血闘病記	^{タニムラミツオ} 谷村光夫	日本図書刊行会	ガンを確実に治す薬や治療法は未だないが、ガンを撲滅する方法はある。身体の内側から生命力を創り出し、ガン細胞を撲滅させる方法を紹介する。	1998
280			け	^{ケイコ} 敬子の ^{ニッキ} 日記	^{ウエダケンイチ} 上田謙一	碧天舎	2003	
281			こ	コニタンの闘病日記	小西博之	太陽エージェンシー	2005	
282			し	死をおそれないで生きる ^イ がん ^イ になったホスピス医の ^イ 人生論 ^{ジンセイロン} ノート	^{ホソイジュン} 細井順	いのちのこ ば社	「死さえも人生の一部である」著者自身のがん患者としての体験とホスピス医としての経験をふまえて、豊かな生き方、納得した終わり方について考えた人生論ノート。	2007

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
283		腎臓がん	だ	ダンガイ トシ 断崖の年	ヒノケイゾウ 日野啓三	中央公論社		1992
284		副腎がん	し	シンク 真紅のバラを37本	タカハシ ヤスヨ 高橋穩世	日本看護協会 出版会	厚い胸のたくましい夫に、太陽のように輝く息子。二人の家族を、癌によって失った女性の手記。昭和58年新声社刊の新装版。*顎下腺腫瘍	2001
285			い	いい人はガンになる	ヨシカワ ヌユイチ 吉川勇一	KSS出版	タバコ、酒、食べ物、公共機関、生命保険、障害者手帳、妻、親きょうだい…。「闘病」を通して見えてくる、ガンとの爽快な付き合い。自らの体験を通して、ガンと共にある暮らしを語る。*胃がん	1999
286			い	イシャ ダイヨウジョウ 医者の大養生	スギウラ アキヨシ 杉浦昭義	講談社出版 サービスセン ター	「医者の不養生」なんて誰が言った？ 自らガンを克服した医師が贈る、読んで笑って健康になる面白エッセイ。ガンとの奮闘、診察室のウラ話、好奇心いっぱいの旅行記などをユニークな筆致で描いた42篇を収録。	1997
287	泌尿器	膀胱がん	お	ヨウキ カンジャ シンキンヨウソク オレは陽気ながん患者 心筋梗塞 もやったぜ!	ヤマナカ ヒサン 山中恒	風媒社	これまでの医師对患者の概念や図式を壊して、病気をはさんで医師と患者が人間らしい関係を修復していくには？ 自らの膀胱がんと心筋梗塞の入院体験をもとに、その手がかりを探る療養エッセイ。95年ベストセラーズ刊の増補。	2000
288			さ	サイレント・ガーデン タイイン ホウヨク 滞院報告・ サイテン キャロチンの祭典	タケミツオトル 武満徹	新潮社	世界的な作曲家タケミツが四カ月あまりにわたって書き続けた病床日記「滞院報告」と、並行して書かれた絵入りの51品のレシピ「キャロチンの祭典」を手描きのままカラーで収録。	1999
289				ニシビョウトウ さらば西病棟	あんどうただ すけ	文芸社		2007
290		前立腺がん	あ	アツという間に、消えちゃった。ガ カンジャ カ キ ナオ ジュウリュ ン患者が書いた「切らずに治す」重 ウンセンチリョウ 粒子線治療	シマザキ ヤスヒコ 島崎保彦	K&Kプレス	前立腺ガンを患った著者が体験した「切らずに治す」重粒子線ガン治療。重粒子線って何？ 切らずにガンが治るって、本当なの？ などよく聞かれることについて、医学やガン治療の知識のない患者の立場からまとめる。	2005
291			が	ガン ヨネナガリュウ ゼンリツセンガン サ 癌ノートー米長流 前立腺癌への イゼンシュ 最善手	ヨネナガ クニオ 米長邦雄	ワニブックスP LUS新書	2008年春、前立腺癌と診断された。手術か、放射線療法か、ホルモン療法か。長考の末に永世棋聖が選んだ最善手とは？ 「男の命」から尿漏れの心配まで癌との戦いを赤裸々に書き尽くす。	2009

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
292	泌尿器	前立腺がん		がんは怖かった 早期発見の大切さ <small>コフ ソウキ ハッケン タイセツ</small>	さかい一三 <small>ヒフミ</small>	文芸社	男性をやめるか、人間をやめるか、究極の二者択一を迫られる！前立腺がんを克服した著者の貴重な記録。がんの早期発見と闘病のノウハウについて、豊富な資料をもとに、適切なアドバイスを提供する。	2008
293				癌を追ってーある貴重な闘病体験 <small>ガン オ キチョウ トウビョウ タイケン</small>	イシヒロミツ 石弘光	中公新書ラクレ	父親と同じ前立腺癌が発見され、全摘出手術を受けた著者が、執刀医との遣り取りから家族との交流まで、経済学者の厳正な目と温かい人間観察を併せ、あますところなく記す。	2010
294				癌を抱えてガンガーへ 性と死の不安と向き合う <small>ガン カカ セイ シ フアン ム ア</small>	タカガキ チュウイチロウ 高垣忠一郎	三学出版	癌を抱えて、性や死の不安と向き合う。それは「インドの旅」と同様、僕の「異界」への旅。癌と向き合い、体験したことや考えたことを綴る。	2002
295			き	キツガン 拮癌	ヤマノウチシオ 山内利夫	論創社		2003
296			し	死への準備教育 <small>シ ジュンビ キョウイク</small>	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	読売新聞社		1996
297				死への準備教育 クレイマー夫妻の対話 <small>シ ジュンビ キョウイク フサイ タイワ</small>	ハーバート・クレイマー ケイ・クレイマー	読売新聞社	67歳の広告マン、ハーブは、前立腺ガンであと1年の命と宣告される。セラピストの妻と、生と死の意味、愛、性について語り合ううちに、次第に希望と安らぎを持つようになる。死を見つめる熟年夫妻の心の交信の記録。	1995
298			ぜ	ゼンリツセン ガン コクフク 前立腺癌を克服して	ツルオカ シンイチ 鶴岡信一	善本社		2005
299			た	タジュウ ガン コクフク タイケンテキ チリョウ 多重がんを克服して 体験的治療ガク学	クロカワ ノブユキ 黒川宣之	金曜日	著者の前立腺がん、大腸がん、胃がんの治療体験を中心に、がん医療の現状を取り上げる。貴重な「用心と安心のガイドブック」。『週刊金曜日』に連載された「多重がんに見舞われて 体験的治療学」に加筆して単行本化。* 胃がん、大腸がん	2006
300			つ	ツマ ハザマ 妻とがんと狭間で	キクチ ヨシオ 菊池良男	新風舎		2007
301			と	トウビョウ カンジャ シンリジジョウ 闘病患者の心理事情	コンロオサム 胡代戡	近代文芸社		1996

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
302	前立腺がん		の	残 <small>ノコ</small> された生命 <small>セイメイ</small> をいかに <small>イ</small> 生きるか	スギハラテロオ 杉原輝雄	主婦と生活社	1997年暮れにガン宣告を受けながらも、手術を拒否し、ツアープロとして勝利へのあくなき執念を見せ闘う男・杉原輝雄。そのゴルフ哲学、そして残された人生や周囲の人々への思いを込めて綴られた本。	1998
303			ぼ	僕は生きるぞ、生き抜くぞ！ 患者 <small>ジャカ</small> が書いた重粒子線治療 <small>ジュウリョウシセンテリョウ</small> 、その後 <small>ゴ</small> 、3年 <small>ネン</small>	シマザキヤスヒコ 島崎保彦	K&Kプレス	前立腺ガンの患者が、高度先進の重粒子線治療を受けて、その後3年。その「Quality of life」は、どうだったのか？ ガン治療後の本当の様子を綴った、患者本人による実録。	2007
304			み	道 <small>ミチ</small> づれ賛歌 <small>サンカ</small> がんの闘病 <small>トウビョウ</small> でまなぶ	ミクニリュウザ 三國隆三	展望社	医者がさじを投げたがん患者が生還した。著者の前立腺がん闘病記などを交えて、治す力、癒す心をさぐる。太く、長く「セカンドライフ」を生きるための最新情報つき健康ガイド。	2005
305			わ	私 <small>ワタクシ</small> と木島則夫 <small>キジマノリオ</small> の闘い <small>タカ</small> 癌 <small>ガン</small> と老いと <small>オ</small> の2500日 <small>ニチ</small>	キジマキヨコ 木島喜世子	リム出版	2500日に及ぶ夫の病との闘い。そして、安楽地だったはずの老人ホームへの怒り。NHKのアナウンサーをふりだしに、政治家としても活躍した木島則夫と夫人が、誰もが抱えなければならない問題を痛切に訴える。	1991
306			泌尿器	精巣がん	た	玉取物語 <small>タマトリモノガタリ</small>	ナガタマサカズ 永田雅一	ベネッセ
307	な	難治性精巣腫瘍闘病記			バチ	ホンニナル出版		2008
308	ら	ラフラ24歳の遺言 <small>サイ ユイゴン</small> あるラッパー <small>シヨ</small> の生涯 <small>ウガイ</small>			エグチヨシコ 枝口芳子	ポプラ社	ラフラ・ジャクソン。彼が遺したものは、CD3枚、ライムを書いたノート3冊、それに多くの絵。日本人の母親とアフリカン・アメリカンの父親、二つの血を駆け抜けたラッパーの鮮やかな人生の記録。	2001
309	が	がんからの生還 <small>セイカン</small> 告知から一年 <small>コクチ イチネン</small> 、闘病レポート <small>トウ</small>			サイカワ タカスミ 西川孝純	朝日ソノラマ	政治記者の激務をこなすなか、癌を告知され、リンパ節腫大の摘出手術、検査入院、化学療法、がんセンター入院と、本人も家族も大わらわの一年を過ごし、小康を取り戻した著者の克明な闘病記。* 胚細胞腫瘍	1996
310	辜丸腫瘍	あ			あきらめるのはまだ早い <small>ハヤ</small>	イワキトシユキ 岩城世幸	ミッドナイト・プレス	
311		が	がんと向き合 <small>ム</small> って <small>ア</small>	ウエノハジメ 上野創	晶文社	26歳の新聞記者が突然ガンの告知を受けた。直に左辜丸の切除の手術を受けたが、ガンは肺全体に転移していた。心配なのは恋人のこと。ところが彼女は、満面の笑顔で言ったのだった。「結婚しよう」と。新聞連載を単行本化。	2002	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
312	女性	乳がん	あ	あなただって「がん」と一緒に生き られる 自らも患者である医師に 学ぶ「がん」に負けない生き方	オグラツネコ 小倉恒子	KAWADE夢新 書(河出書房 新社)		2002
313				アマゾネスのように	ナカジマアズサ 中島 梓	集英社		1992
314				アメリカで乳がんと生きる	マツイマチコ 松井真知子	朝日新聞社	千葉敦子の凄絶な闘病から13年、アメリカのがん治療は大きく変わった。アメリカでがん告知を受けた日本人社会学者が、自らががん医療の最新現場を調べ、死と生と新たな出会いについて考える。末期がん患者の体験的レポート。	2000
315				「いのちの授業」をもう一度 がん と向き合い、いのちを語り続けて	ヤマダイズミ 山田泉	高文研	国東半島の里山の学校。子どもたちとぶつかりあい、笑い、涙してきた山ちゃんによる「山びこ学校」のアーカイブス。教育行政への、現場からの叫び声ともいえる一冊。11年間書き続けた「保健室日記」ほかをまとめ単行本化。	2007
316				ウィズ・ユー	ドバシヨウタツ 土橋弘達	東洋出版		2006
317				Willー眠りゆく前に	オグラツネコ 小倉恒子	ブックマン社	がんと闘い続けて19年。再々発、そして全身20カ所以上の転移。けれど負けず嫌いな私は強く生きる。仕事のために。我が子のために…。生きる勇気が湧いてくるノンフィクション・メッセージ。	2006
318				裏切られたガン患者たち	イワマツヒサオ 岩松久保	五月書房	末期ガン患者は病院に見捨てられてしまうのか。ガン治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1999
319				え	エモン 絵門ゆう子	朝日新聞社	時にゆっくり、時にいそがしく、そしていつもニッコリ。今日を生き、明日を信じ、命尽きる時まで、がん患者とその家族のために全力でつづり続けた命のメッセージ。『朝日新聞』東京版連載の単行本化。	2006

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
320	女性	乳がん	お	オオゾラ マユミ タジュウ ゲキタイチュウ ニュ 大空真弓、「多重がん」撃退中！ ウ ィ ショクドウ 乳がん胃がん食道がん	オオゾラ マユミ 大空真弓	宝島社	乳がんの手術から5年、転移ではなく胃がん発症、続いて食道がんも…。女優・大空真弓は「モグラたたき」のようにがんを先手で撃退してきた。「こんな患者みたことない」と医者も驚く多重がん患者・大空真弓の戦い！ * 胃がん、食道がん	2005
321				おっぱいがたいへん!! 乳がん治 チリョウ ニッキ 療日記	さかいひろこ	日本放送出版 協会	乳がん手術を受け、現在もホルモン療法真っ最中の漫画家が、乳がん告知から入院・手術・退院、放射線治療、ホルモン療法まで、自身の経験を綴ったまんが治療日記。乳がん情報も多数収載。	2007
322				おっぱいが二つほしい 私が選ぶ フタ ワタクシ エラ チブサ サイケン 乳房再建	ウチダ エイコ 内田絵子と ジョセイ イリョウ 女性の医療 カンガ カイ を考える会	北水	夫の仕事に伴ってシンガポールに滞在していた時、乳がん摘出手術、5カ月にわたる抗がん剤治療、乳房のふくらみ・乳輪・乳頭をつける乳房再建手術を体験した女性が中心となって、乳房再建手術についての情報を提供する。	2001
323				おっぱいの詩 21歳の私が、どうし ウタ サイ ワタシ ニユウ て乳がんに?	オオハラ 大原まゆ	講談社	21歳の若さで乳がんになった女性の闘病記。10年生存率75パーセント、だけども私はけっこう幸せ!「楽しいことはしっかり楽しみ、悲しいことには慣れる」の精神で免疫カアップ!	2005
324				おっぱいの涙：乳がん闘病体験記 ナミダ ニユウ トウビョウ タイケンキ : まんが	ノグチ ユミコ 野口弓子	ぶんか社		2005
325				踊りながら私はいこう ホスピスか オド ワタクシ デンゴン らの伝言	ウエハラ クミコ 上原久美子 ウエハラ カズハル 上原一治	南方新社	「鹿児島ホスピスを考える会」の発起人としてホスピスの重要性を伝え続けた著者。自らもがんを患い、2度の再発を経て、ホスピスで静かな最期を迎えた。ひとつの選択肢であるホスピスのすばらしさを残された手記が語る。	2002
326				かえるノート 乳がんになって私が ニユウ ワタシ エ ラ ミチ 選んだ道	かえる	知玄社		2007
327				か カゼ 風のつらら	シバサワ ナオヤ 柴沢真也	鳥影社	「長年連れ添った人を家で看取るのは、よほど強い気持ちじゃないとできませんよ」医師にそう言われた夫はしかし、乳ガンから皮膚に転移した末期ガンの妻を在宅で看取った。1組の夫婦の、ある愛の形。	2009
328				カノジョ ニユウ 彼女が乳がんになって考えた	ブレンダン・ ハルピン	ソニー・マガジ ンズ	ある日突然試練が訪れた。妻が乳がんを宣告されたのだ。それも第4期だという。いったいどうしたらいいのだろう…。乳がんになった妻とその夫が直面するリアルな心の揺らぎを、あふれるユーモアと涙と笑いで綴るエッセイ。	2003

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
329			か	カンジャ 患者からのカルテ	サハラ ヨウコ 佐原 蓉子 サハラ リュウシ 佐原 竜誌	エミール社. ルック		1995
330				がけっぷちナース がんとともに生 きる	ヤマウチ リカ 山内 梨香	飛鳥新社	自分が乳がんになるまで、病気は他人事だった…。がんになっ ても、転移していても、がけっぷちでも、私はこんなに元気で生きてい る! 乳がん、転移、再発を繰り返しながらも、乗り越えているナース の体験談。	2009
331				がんingマイウェイ 経験をプラスに 変えてきた私の闘病Q&A	フジモト マチコ 藤本 真知子	同時代社		2007
332				がんから教わるワンショットセラ ピー	ナカモト マサコ 中本 雅子	文芸社	41歳まで超健康だったのに、胸のしこりを発見して世界が一変し た。ガンになった時、ガンを敵にしたり屈服するのではなく、闘病の 日々を振り返り、名もない花の花びらが一枚だけ残るような、そん な新しい形のガン体験記。	2002
333	女性	乳がん	が	がんからの出発	ワット タカコ ワット 隆子	医学書院	がんとの闘い、あけぼの会の会長としての責務との奮闘、そして 妻として母親としての役目を十分に果たせなかったのではというす まなさとの葛藤、そして、がん患者から医療従事者、特にナースた ちに向けての挑戦的な注文を続けた著者の「格闘記」。	1992
334				ガンからのストレス脱却へ 患者とし ての医療への要望	マエダ カズ 前田 和	近代文藝社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療 への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。* 卵巣がん	1995
335				ガン患者が病院から追われるとき	イワマツ ヒサオ 岩松 久保	主婦の友社	ガンで入院した病院から退院を強制される、そんなことが許される だろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追 われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュ メント。* 転移性皮膚がん(鎧状がん)	1994
336				ガン告知のあとで なんでもないこと が、こんなにうれしい	スズキ アヤコ 鈴木 章子	探究社 新書 版	斜里大谷幼稚園を創設し自ら園長も務めるが、乳癌の宣告を受け 入院。熱心な仏教徒で僧籍も持つ著者が、死の間際まで書き続けた、 自身にまつわるエピソードや数々の詩を収録。1989年刊の新 装改訂版。	2000
337				がん人生	シオザワ トキ 塩沢 とき	データハウス	* 舌がん	1992

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	
338	女性	乳がん	が	がんだから上手に生きる ^{ジョウズ イ}	タハラセツコ 田原節子	海竜社	それは悪性の乳がんだった。余命半年の宣告から奇跡の5年を生き、今だから言えること。家族、主治医、病院、仲間、すべてに支えられて闘病はできる。希望ある一日一日を、命をかけて生きる著者渾身の愛といのちの記録。	2004	
339				がんでも私は不思議に元気 ^{ワタシ フシギ ゲンキ}	エモン 絵門ゆう子	新潮社	「がんの全身転移」を告白し、私の生活は一変した。日々忙しく駆け回るなか綴った自身の病状、医療の実態そして患者の本音とは。2003年刊「がんと一緒にゆっくりと」に次ぐ第2弾。再び全てを語ります。	2005	
340				ガンと生きる けっしてあきらめないで ^イ	タカコ ワット隆子	あけぼの会		2003	
341				がんと一緒にゆっくりと あらゆる療法をさまよって ^{イツショ} ^{リョウホウ}	エモン 絵門ゆう子	新潮社	気功・温灸・食事療法から先端医学まで、全身のがんを治そうと手当たり次第に試して分かったことは。元NHKアナウンサー・池田裕子が綴る、恐怖、涙、そして笑いが詰まった元気になる闘病記。	2003	
342				ガン 私と私の共同生活 ^{ガン ワタクシ キョウドウ セイカツ}	タワラモエコ 俵萌子	海竜社	たとえ明日再発しても、今日は今日の夢を生きる。癌と真摯に向き合った一年半にわたるドキュメント。癌が抱えている現代医学の問題点を患者の目から提示する。	1997	
343				がんになってきこえた唄 ^{ウタ}	フクヤアユミ 福谷歩	日本文学館		2003	
344				ガン わたしは幸福(しあわせ)に死ぬ ^{シアワセ} ^シ	ミタライユミ 御手洗佑美	主婦の友社	「人は地球の旅人」と言っ、53歳で旅立ったチャイナペインター。死の3カ月前から、大学時代からの親友が聞きとったりインタビューしたりしたものを1冊にまとめた。死を真正面から見据え明るく生きて逝った記録。	1995	
345				がんを道連れに13年 いのちを見つめて ^{ミチズ} ^{ヘン} ^ミ	ミヤオシゲコ 宮尾茂子	未来社	再発につぐ再発のなかで、書くことによって自分の死を対象化すると同時に、他者の生と死に近づき寄りそう日々を重ねてきた著者。終末期を人間らしく生きるためにがん患者とその家族はどう生きればよいかを問い直す。	1997	
346				き	きつと良くなる必ず良くなる 多重 ^ヨ ^{カナラ ヨ} ^{タジュ} がんとの闘いの記録 ^ウ ^{タタカ} ^{キロク}	ヒロノミツコ 広野光子	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。* 卵巣がん	1998

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
347	女性	乳がん	き	キョウ ゲンキ 今日も元気で！ カンゴフ ハハ ニュウ 看護婦・母乳が カンジャ ん患者	イデ マチコ 井手真知子	北水	車いす生活を経験した少女は看護婦になる夢をかなえた。しかし待っていたのは、夫の皮膚ガン、母の腎ガン、そして自らの乳ガン…。それでも太陽に向かうひまわりのように前向きに生きる著者のエッセイ。	2001
348				ナオ ニュウ センゲン 「キレイに治す乳がん」宣言！	ヤマザキ タカコ 山崎多賀子	光文社	美容ジャーナリストが直面した、乳がんという現実。現代の女性にとってキレイであることがどれほど大きな力を持つか、また最先端の治療のことまで、患者の視点から著者ならではの独自の切り口で紹介する。	2007
349			こ	コウ イ キョウセ 怖がらないで生きようよ がんと共に イ イン 生ずる医師のポジティブ・ライフ	オグラツネコ 小倉恒子	講談社	乳がん手術、離婚、そして再発、転移…。乳がんになってからの15年、がんと無理に闘わず、かといって逃げもせず、自然体で生きてきた著者。医師ならではの抗がん剤副作用対策、代替療法、暮らしの工夫の数々も語る。	2002
350			さ	サイハツゴ イ 再発後を生きる	イデアフォー	三省堂	乳房再建手術のこと、恋もできるよということ、自分自身がまだあきらめていないということ…。死ぬ瞬間まで精一杯生きていたい！再発後を生きる21人の乳がん患者の実名手記	2003
351				ササ ニュウ セイカン 支え 乳がんからの生還	モリシタ マサミ 森下雅美 モリシタ サトミ 森下里美(アン☆ドウ)	講談社	30歳、突然の乳がん宣告。一卵性の双子タレント「アン☆ドウ」の森下雅美が、乳がんの発見、闘病生活、結婚、アン☆ドウの結成から東京進出までを綴る。妹・里美のサポート記も収録。	2008
352				サイ 34歳でがんはないよね？ ある ジャーナリストの揺れる心の軌跡	ホンダ マユミ 本田麻由美	エビデンス社	「生」に固執して闘う姿は、浅ましいか。乳がん患者として体験した心の叫びを綴る一方で、新聞記者ならではの視点で医療問題を見据え、自らモデルケースとなって「生」を探り続けたノンフィクション。	2008
353				し	シ ニュウガン 知っておきたい乳癌	セキグチ レイコ 関口礼子	リベルタ出版	年々、増え続ける乳癌患者。ある日突然、乳癌罹患を告げられたら、仕事は？ 家庭は？ 入院費用は？ 「男だから」として乳癌のことを知らずに済ませるわけには行かなくなった。いざというとき慌てふためかないための一冊。
354			し	シ フチ 「死の淵」から	ハラヒロコ 原宏子	新生出版		2008
355				シボウリツヒヤク 死亡率百パーセントを生きる ある アイ シ キロク 愛と死の記録	キハラフイチ 木原武一	新潮社	乳癌の発病、余命3か月の宣告…。しかし、妻はホスピスから奇跡的に退院し、濃密な3年を生きて、逝った。生の歓びと死への怖れ。克明に描かれた、ある夫婦の10年間の記録。	2000

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
356	女性	乳がん	じ	ジョイ ニュウ サイフ 女医が乳がんになったとき 34歳。 タクシ ヤマイ オ 私は病に侵された。でも、負けな かった。	オグラツネコ 小倉恒子	ぶんか社文庫		2005
357			す	ゼツボウ ヨロコ カ ジョ スマイル 絶望を喜びに変えた女 セイ キロク 性の記録	ドイノブミツ 土居伸光	光文社	医者に見放されて、初めて道は開かれた。病院での治療を受けな い代わりに、末期ガンという不幸な出来事に押しつぶされることな く、前向きなものへと転換し、最期まで微笑んで逝った妻の闘病記 録。	2000
358			ず	ずっとママでいたい	マイニチ ホウソ 毎日放送 ウ ヴォイス 「VOICE」編	双葉社	「ママの病気も、頭の中のガンも、全部なおりますように-」乳ガン と闘いながら命がけて次女を出産し、「家族に残された時間」を全 力で生きた土江絵美さんが残した家族の尊さを描く真実の物語。	2008
359			そ	ナツ チブサ キ ア その夏、乳房を切る めぐり逢った シセイカン 死生観	シンハラアツコ 篠原敦子	創栄出版	右胸から腋の下にかけて、電光石火のごとく散る、鋭い痛みを覚 えた。「悪性です」と告げられ、その場で手術日が決められた…。 闘病記にとどまらず、21世紀の今を生きる女性を映し出したドキュ メンタリー。	2008
360				ソプラノナース乳がん奮闘記 ～ 合唱団の仲間へ～	四戸由香	らくだぶっく(文 庫版)		2008
361			た	ハ ヒ たたかいはいのち果てる日まで エイ シ ナカアライクニオ アイ ジッセン 医師中新井邦夫の愛の実践	ムカイ ショウコ 向井承子	エンパワメント 研究所	障害者の地域における暮らしを支えるシステムはどうあるべきか。 自らの死に至る病をかえりみることもなく、その答を求め続けたひ とりの医師の壮絶な生きざまを、同時代を共に生きた人たちの「記 憶」を中心に描く。	2007
362			だ	ダイジョウブ 大丈夫だよ、がんばろう！ 私も、 ウ タタカ 乳がんと闘っています	ヤマダクニコ 山田邦子	主婦と生活社	TV収録中に感じた不安、診断を受けるまでの心の葛藤。乳がん に対してどう考え、どう行動したのか。そして、今、改めて思う、感謝 と決意とは…。がんになっても自分らしく生きるための、邦ちゃんか らの本音メッセージ。	2008
363			つ	ツマ ニュウボウ ニュウ アル フタリ 妻の乳房「乳がん」と歩いた二人 ジュウロクネン の十六年	ムライ クニオ 村井国夫 オトナシ ミキコ 音無美紀子	光文社	16年前に左乳房の摘出手術を受け、過酷な乳がん戦争を生き抜 いてきた音無美紀子が、手術方法への悩み、喪失感からのうつ病 体験等の事情を、苦楽を共にしてきた夫・村井国夫と共に綴る。	2004
364				ツマ ヨメイ 妻の余命	ニシナシゲオ 仁科滋夫	幻冬舎ルネッ サンス(ルネッ サンスブッ ス)		2006

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
365	女性	乳がん	て	テンゴク 天国なんか待たせておけ！ わた しの乳がん日記	エリザ・セグ レイヴ	三田出版会	離婚、2人の子供、恋人、ライターとしての野心と悩み、パーティ… そして乳がんと向き合ったロンドンの日々を綴る。	1997
366				トウガン ホウロウキ 闘癌放浪記	キシモト ヒデオ 岸本英雄	近代文芸社	ホスピス、そこは合法的安楽死施設か、姨捨山か。妻への癌の 宣告、そして転移。名医の噂、民間療法に翻弄されながら、ただ妻 の完治を祈った夫の真摯な記録。	2004
367			と	トウキョウ 東京タワーがピンクに染まった日 今を生きる	アグネス・ チャン	現代人文社	芸能、大学教授、ボランティアなど多方面で活躍するアグネス・ チャンが、自身の乳がんの闘病体験から学んだ様々なことを綴り、 ピンクリボン運動の意義を訴える。	2008
368				トウ 永遠へ ガンを抱えた母から、まだ 幼い我が子への手紙	ヨコウチ ミチヨ 横内美知代	ソニーマガジ ンズ	乳がん発症、乳房摘出、妊娠中の婚約者の失踪、がん再発の中での 出産、がん再々発…。それでも私は、あなたがいたから生きている。 病と闘いながら、ひとりで子育てを続けるシングルマザーの、 心からのメッセージと記録。	2005
369				ニュー 乳がんが生ける力をくれた「余命 三年」の宣告をのりこえ 苛酷なラ リーにいのちを燃やす愛と勇気と 挑戦の人生	バンロ リツコ 能城律子	宙出版	62歳、しかも両乳房を喪った体でハンドルをにぎり「マスターラ リー」で全長9千キロの砂漠と草原を疾走。人生、いつだって「今」 がスタートという著者の「生」への賛歌。	1997
370				ニュー 乳がん全摘手術 ドキュメント	イトウトシコ 伊藤敏子	健友館	突然襲うがん、中でも乳がんは女性の生き甲斐をも奪いかねない 恐怖の一撃である。乳がんを襲われ、精神的葛藤の中で生きる道 を探り当てた女性の姿を描く。	2000
371			に	ニュー 乳がん医師選択権(ドクターズショツ ピング)	ナカハマ ジュンコ 中濱潤子	小学館文庫		2000
372				ニュー 乳がんなんかで泣かない 涙を 微笑みに変えるまで	リボンの会	扶桑社	近年増加の一途にある若年性乳がん。若くして乳がんの告知を受 け「なぜ自分が?」と運命を呪い、パニックに陥った女性たちが、自 分を見つめなおし、とことん納得のいく治療法を探しあて、新しい 人生を迎えるまでの感動の手記。	2004
373				ニュー 乳がんなんかには負けられない	チバアツコ 千葉敦子	文春文庫		1987

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	
374	女性	乳がん	に	ニュー アル 乳がんの歩きかた 余命を生きる モノガタリ 50の物語	タムラ コ 田村まり子・ フタマツ ヒロキ 二松啓紀	文理閣	ひとりの女性が末期乳がん診断を受けて4年。未承認薬がくれた新しい人生は、通院治療、家事復帰、ショッピングや夫婦旅行、初孫の誕生へと続いていく。患者、家族、医療関係者に「人生の質」を考えさせる闘病記。	2007	
375				ニュー 乳がんのうた	イチイ コ 市井ノリ子	保健同人社		1990	
376				ニュー ジョイ オク ニュウ サイハ 乳がんの女医が贈る乳がんが再 ツ ヒト アカ ショホウセン 発した人の明るい処方箋	オグラツネコ 小倉恒子	主婦の友社	長年、乳がん向き合ってきた女医が、乳がんの治療法や、精神的にタフな人間になれる方法、全身転移という状態でも元気に、毎日を楽しく送る秘訣などを語る。ヘア・メイクの秘密プロセスも紹介。	2009	
377				ニュー オンナ 乳がんは女たちをつなぐ 京都か セカイ ら世界へ	オオツ ノリコ 大津典子	藤原書店	それは京都の小さな乳がんクリニックから始まった。自ら乳がんの温存手術を受け、同病の友の支えによって生きる力を取り戻した著者が、乳がんを共有する中でお互いに心を開き、絆を結び直していく女たちの姿を描く。	2006	
378				ニュー ミオ ヨ 乳がんはなぜ見落とされたのか メイハントシ ワタシ 「余命半年」の私にできること	ヤマグチ マリコ 山口真理子・ アサヒシンブン ニュウ 朝日新聞「乳 ケンシン シュザ がん検診」取 イハン 材班	朝日新聞社	検診で乳癌を見落とされ、余命半年の告知を受けながら、検診制度の見直しを訴えて歩いた女性の手記と、多数のメディアで取り上げられ、厚生労働省に制度の見直しを決定させた朝日新聞キャンペーン記事から成る一冊。	2004	
379				ニュー ワタクシ キメ イ カタ カギ 乳がん 私の決めた生き方 限り イノチ ハナ ある命を花のように	ミヤタミナリ 宮田美乃里	リヨン社	思いもよらない乳がんの宣告。悩んだ末の選択は「治療は受けない」。無理をせず、あるがままの、与えられた命を生きたい。それが私の願い。がん治療をしないって、そんなに悪いことですか？	2003	
380				の	のぞみを胸に	ハマナカカズコ 浜中和子	ガリバープロ ダクツ	すべての人にいつか死はやってくる。だからこそ、一日一日を大切に、最後までのだぞみを胸に持ち続けて生きていこう。乳がん患者にして医者でもある著者が、自らの体験を率直に語る。	2004
381				ぱ	パリのおっばい 日本のおっばい チリョウ センシンコク タイケン ガン治療先進国での体験から	キダチレイコ 木立玲子	集英社be文庫		2003
382				ひ	ヒト 人ごとでいられますか？ 乳癌	マツ ミドリ 松翠	朱鳥社		2005

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
383	女性	乳がん	ふ	フウフ 夫婦で「がん」を生きる	スガヌマ テイケン 菅沼定憲	日本評論社	夫は中咽頭がん、妻は乳がん+食道がん。共に「がん」を体験した2人が学んだのは「がん」と仲良くしましょう、ということ。がん細胞という不思議な生物の正体を探りながら考え、がんになったらどうすべきかを提言する。* 咽頭がん	2008
384			フウフドウジ 夫婦同時ガンになって ガン患者 サイシン チリョウ ホウコク の最新治療報告	スガヌマ テイケン 菅沼定憲	阪急コミュニ ケーションズ	ガンよ、ありがとう。愛を深めてくれてー。夫婦共に自覚症状がまったくなかったが、夫は中咽頭ガン、妻は乳ガンに。患者の立場からのガン治療最新情報と、同時にガンを宣告された夫婦の愛の記録。* 咽頭がん	2006	
385			ヘヤ 部屋とYシャツと「私の真実」	ヒラマツ エリ 平松愛理	集英社be文庫		2004	
386			ベ ベター・ハーフ	ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。* 白血病	1998	
387			ぽ ぽっかり穴のあいた胸で考えた わたしの乳がん体験記	タカハシ 高橋フミコ	パジリコ株式 会社	40代、独身、パフォーマンス・アーティスト。「オンナらしさ」とは無縁、ピンクリボンキャンペーンにはなじみず、乳がんが解放感を味わうわたして、どうよ? そんな著者による、トランスジェンダー的がん闘病記。	2006	
388			よ ヨメイ カゲツ ハナヨメ 余命1ヶ月の花嫁	TBS「イブニ ング・ファイ ブ」編	マガジン・ハウ ス	24歳の女性が懸命に生きた「現実」の記録。乳がんを闘い、最後まで人を愛し、人に愛され、人を支え、人に支えられた人生を生き抜いた長島千恵さんの愛といのちのメッセージを紹介。TBSで放送のドキュメンタリーを書籍化。	2007	
389			わ チブサ ツマ わが乳房を夫に	ホリエ 堀江きょうこ	毎日新聞社		1992	
390			ワタクシタ タカカ ニュウ サイハツ タイケンキ 私たちは闘う 乳がん再発体験記	ワット 隆子	あけぼの会		1998	
391			わたしが「がん」になったとき	ヒロノ ミツコ 広野光子	イーストプレス	* 卵巣がん	1995	
392			クチベニ リユウ わたしが口紅をつけた理由	ジェラリン・ ルーカス	文園社	27歳で「しこり」を見つけ、28歳で乳房切除手術を受けた著者が綴る、パワーの溢れる闘病記。試練に立ち向かうとき、強力な敵と闘うときにもユーモアを忘れず、結婚も仕事も手放さずに猪突猛進する姿に勇気をもらえる一冊。	2006	

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年		
393	女性	乳がん	わ	わたしは ^{カゼ} 風 ^{ニユ} の ^{ニユ} って ポレポレ乳がん闘病記	タムラ ヨコ 田村まり子	文理閣	「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくり、のんびり」という意味。どこまで、走れるか、歩けるか…。『京都新聞』連載の闘病記「乳がんつれづれ」「続 乳がんつれづれ」をまとめる。	2006		
394			あ	アカ ^{チヨウチヨウ} 赤い蝶々	シホ ますい志保	小学館	夜の世界で成功した銀座ママが、子宮を失って初めて知った本当の自分。虐待、籍だけの夫、美容整形、不倫、暴行…。TBS系「金スマ」でも大反響を呼んだ衝撃の半生、そして凄絶な子宮がん闘病日記。	2004		
395			い	いのち ^{キラメ} 煌いて	ニシナアキコ 仁科明子	小学館	俳優の松方弘樹夫人が初めて綴った自分史。少女時代、女優デビューと、世間から非難された松方弘樹との恋、壮絶なる子宮がん闘病…。いまだから語れる秘話を初公開します。	1996		
396				いのち ^{カギ} の ^{ニジュウ} 限りを ^コ 二重がんを超えて	クマガイサチコ 熊谷幸子	海竜社	* 腎臓がん	1988		
397			子宮がん	お	オンナ ^{タタカ} 女ひとり ^{ヨンキ} がんと闘う IV期のがんを6か月で ^{ゲツ} ふっ飛ばした ^ト 仰天 ^{ギョウテン} パワフル ^{ドウ} 闘病記	スガノ アンリ菅野	青春出版社	「えっ、私が、がん!?!」突然の宣告に頼れる家族も彼氏もない。襲いかかる苦痛、果てしない不安。すべてを自分に受け入れて、がんと闘い抜き、克服した、アンリ菅野の闘病と自分探しの物語。	1999	
398					が	がんよ、ありがとうがらし ^{ニド} 二度の ^{タイケン} がん体験 ^ミ から見えてきたもの	オガタマサコ 緒方真子	文化出版局	がんは、生を考えるチャンスのひとつ。そこから見えてきたものは、いとおいしい人間模様というたくさんの宝物。一度がんになった人、がんにかかることを恐れている人へ贈る、ユーモアあふれるがん闘病記。* 肝臓がん	2000
399					し	シキユウ ^イ 子宮ガン…生きるための私の ^{ワタクシ} 選択 ^{センタク}	アクタマキ 芥真木	小学館	94年3月、東京医科歯科大学附属病院で2期まで進んだ子宮頸ガンを突然告知される。両親にそれを告げる瞬間、抗ガン剤治療とその副作用、7時間にも及ぶ大手術、術後のさまざまな感染症の苦しみ。闘病生活の全てが収められた。	1995
400						シキユウガン ^{オンナベンゴシ} 子宮癌のおかげです 女 ^{ゼン} 弁護士の ^{テキ} 全摘 ^{ニチカン} 57日間の ^{キロク} 記録	アツミマサコ 渥美雅子	工作舎	即断即決・収支決算付きの「明るい闘病生活マニュアル」。突然のガン宣告から子宮全摘手術、退院までの闘病生活を、過激に、そしてユーモラス語る。渥美雅子節が炸裂!	2003
401					じ	シユウ ^{シアワ} 16週あなた ^{ジカン} といた幸せな時間	ムカイアキ 向井亜紀	扶桑社	「わずか4カ月間…。私はたしかに、お母さんだった。」妊娠と同時に告げられた子宮ガン。全摘手術で我が子も失った向井が、夫・高田延彦とともに闘った日々を綴る命の記。	2001

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
402	女性	子宮がん	は	はいッ!ガン ^{ナオ アカボシ} を治した赤星 ^{シキユ} です!! 子宮 ^{ツウカイ} ガンからの痛快サバイバル日記 ^{ニッキ}	アカボシ 赤星 ^{ニッキ} たみこ	扶桑社文庫		2000
403			は	母 ^{ハハ} への詫 ^ワ び状 ^{ジョウ} (ノン・ポシェット) すべて ^{ツク} をし尽くした。でも……	キリュウ 桐生 ^コ ゆう子	祥伝社		1996
404			ま	末期 ^{マツキ} がん ^{センコク} 宣告 ^ウ を受けとめて 女性 ^{ジョセイ} 外科医 ^{ゲカイ} 「いっしん ^{ノコ} 」の遺 ^ユ したメッセー ジ	イシモト サチコ 石本 ^{イシモト} 左智子	EPIC	「ちょっとアンラッキーだったけど、ハッピーだったよ」という言葉を遺して、彼女はホスピスから旅立った…。「いっしん」という愛称で、友人たちにこよなく愛された一人の女性外科医の、がん病床からの熱く優しいメッセージ。	2002
405			わ	私 ^{ワタクシ} 、延命 ^{エンメイ} 治療 ^{チリョウ} はしません ガン ^ヨ で 余命 ^{メイ} 告知 ^{ヨクチ} された妹 ^{イモウト} ・智子 ^{トモコ} の選 ^{センタク} 択	トダ カズコ 戸田 ^{トダ} 和子	リヨン社	余命告知をされ、抗癌剤治療を拒否し、自分の納得のいく生き方を選択した妹。その闘病生活を支えた姉が「生きる」ことの意味を綴る。「あと3カ月」を自分らしさを模索して貫いた39歳の女性の生き方。	2003
406			え	笑顔 ^{エガオ} の素敵 ^{ステキ} なあなたに	ウエハラ カンナ 上原 ^{ウエハラ} 寛奈	文芸社		2003
407	か	看護婦 ^{カンゴフ} ががんになって	オガサワラ ノブユキ 小笠原 ^{オガサワラ} 信之 ツチハシ ノリコ 土橋 ^{ツチハシ} 律子	日本評論社	度重なるがん体験を通して一人の若い看護婦が独自の看護観や人生観に到達するまでのプロセスを、小笠原が取材をもとに丹念に綴る。みずからの経験を通して体得した看護論を土橋自身が綴った文章も収録する。	2000		
408	く	久和 ^{クワ} ひとみ 絶筆 ^{ゼツピツ} 子宮 ^{シキユウ} がん闘病 ^{トウビョウ} 116日 ^{ニチ} の日記 ^{ニッキ}	クワ 久和 ^{クワ} ひとみ	小学館	突然の子宮がん宣告、司会をつとめていたニュース番組の降板、想像を絶する辛い闘病の日々…。最後まで生きる希望を捨てずに、死の直前までの自らを綴った116日間の凄絶な「命の記録」。日記をもとにまとめたドキュメント。	2001		
409	し	子宮 ^{シキユウ} は一つ、子宮 ^{シキユウ} がんは二つ 子 ^{フタ} 宮 ^{シキユ} 宮 ^{ウタイ} 体 ^{シユジュツ} がん手術 ^{コウ} と抗 ^{ザイ} がん ^{チリョウ} 剤 ^オ 治療 ^オ を終 ^オ えて	サカイ ノリコ 堺 ^{サカイ} 典子	文芸社	年に一度の人間ドックを欠かさず、子宮ガン検診でも「異常なし」で安心していただけなのに、なぜ? 二種の子宮ガンのうち、人間ドックなどでは発見されない体ガンで手術を受けた著者が贈る体験記。	2002		
410			子宮 ^{シキユウ} を産 ^ウ んだら	シイナミサト 椎名 ^{シイナミサト} 美里	東京経済		1998	

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
411	女性	子宮がん	は	ハナミズキ クズ ハナ ガン イ ツマ 花水木と葛の花 癌で逝った妻と ニヒヤクニチ の二百日	ミズカミ アキオ 水上明雄	東洋出版	日ごと増えるモルヒネは痛みこそ和らげるが妻が妻でなくなっていく。私は思わず凍てつく。妻はどこに行ってしまったか。闘病記録を著者に委ね、200日間を生き抜いた妻は、どんなことを伝えようと思ったのか。	2006
412		子宮肉腫	つ	ツマ マエ ガン コクチ 妻よ、お前の癌は告知できない	ウエダ テツ 上田哲	講談社		1998
413		卵巣がん	い	フタタ シュワ ツウヤクシャ いのち再び 手話通訳者ががんになっ て	オオニシ ヤスコ 大西康子	クリエイツかも がわ	サポートされる身になって、初めてわかることがある。手話通訳活動と高齢世帯援助員(SCS)として活躍していた著者ががんになったとき見えてきた、本当の必要な支援のあり方を綴る。	2006
414			う	ウミ カエ ジョウウ カハラナツコ コク 海に還る 女優・賀原夏子 ガン告 チ ゲツ ノ シカン 知から8か月……残された時間を タタカ ヌ オンナ アイ シ 闘い抜いた女の愛と死	ツカハラ スミエ 塚原純江	主婦と生活社		1993
415			お	オカヤマ ダイガク ビョウイン ハツ トウビョウ レッシャ 岡山大学病院発、ガン闘病列車	ハマモト 浜本なおこ	文芸社		2008
416			が	ガンからのストレス脱却へ 患者とし ての医療への要望	マエダ カズ 前田 和	近代文芸社	病んでも輝きを生み出す「活性化」とは。更に、患者としての医療への要望とは。癌とのつきあい生き生きと。*乳がん	1995
417			が	ガンに打ち克つ14通の手紙	フジモト カズヨ 藤本和代 ハヤシ マキコ 林槿子	山手書房新社		1993
418			が	ガンになっても私、セクシィ？ 卵 巣ガン患者発“ふまじめ”のすすめ	タケウチ ヒサヨ 竹内尚代	パンドラ	ガンになったからといって、仕事も降りない、女も降りない。酒と友だちつき合いはますます盛ん。ふまじめな患者に徹する著者はみずからの性と生にどこまでも真面目な患者である。ガンとの偏見のないつきあい方を語る。	2000
419			き	きっと良くなる必ず良くなる 多重 がんとの闘いの記録	ヒロノ ミツコ 広野光子	PHP研究所	乳がん・卵巣がんの二つを病んだ著者の、5年を生き抜いた記録。重篤ながんを病んでも現代の医療と人の持つ自然治癒力を信じて闘病すれば、予後明るく楽しく生きられるという励ましの書。*乳がん	1998

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
420	女性	卵巣がん	さ	サヨコ 小夜子へ ^{ツマ} 妻が遺した花がたみ	カワグチ ミキオ 川口幹夫	集英社	「パパ、パパより先に逝ってしまうけど、ごめんね」君がいるべきだった歲月まであわせて私は生きなければならない。いまだに墓すら建てていない夫が、自らの涙で刻んだ亡き妻への墓碑銘。	1999
421			し	シツテキ テンカン 質的転換	ダイキ 大樹	碧天舎		2004
422			じ	ジュウヨネン ジツカイ 十四年十回のがん手術を生き抜いて	ウエマツ フミエ 植松文江	光文社	子宮の全摘手術を受けて以後、14年にわたる闘病を強いられてきた著者。壮絶な手術、副作用に苦しみながらも、家族の愛に支えられて、常に前向きで生きてきた一人の女性の手記。	2004
423			せ	セキシユン 惜春	ウエダ コウジ 上田孝治	東京図書出版会	たった1%でも存命の可能性のあるのなら、99%を捨てて1%に全てを託す。癌を知らされず、妻が戦った2000日を描いた小説。	2002
424			と	とうさん魂あずかって	芹澤義夫編	ジャパン通信情報センター		2007
425			ひ	ヒヤクマンカイ エイケツ 百万回の永訣 ^{サイハツニツキ} がん再発日記	ヤナギハラ カズコ 柳原和子	中央公論新社	「余命半年」の告知から2年、「死」をみつめて積み重ねた「生」の記録。そして、ふたたび魂の奇蹟は起こった…。生きることの健気さが涙をさそう手記。『中央公論』連載の「残照 がん再発日記」を改題のうえ、加筆・修正。	2005
426			む	ムスメ 娘とわたし	ツムラ ノブコ 津村昶子	静岡新聞社		1997
427			わ	わたしが「がん」になったとき	ヒロノ ミツコ 広野光子	イーストプレス	* 乳がん	1995
428		絨毛性疾患 (絨毛がん)	お	マリエ 真利栄ちゃんママがんばってるよ	オクサコ ヤスコ 奥迫康子	家の光協会	胎盤のがん「絨毛がん」から、奇跡的に生還した母の9か月におよぶ闘病の日々…。生後39日で逝った娘へのレクイエムは、がんとの壮絶な闘いの記録でもあった。「生」と「死」を真正面から見つめる姿が胸を打つ。	1996

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
429	女性	絨毛性疾患 (絨毛がん)	か	カミ ウマ シキウ タカ 神さま！産ませて 子宮ガンと闘 フタゴ シュッサン ハハ キロク い双子出産の母の記録	ナガトモ アケミ 長友明美	講談社		1985
430		絨毛性疾患 (絨毛膜がん)	が	ガ がんに散った！フォトジャーナリス ユメ トの夢	マツダイラ カズオ ケイ 松平和夫・慶 子	文芸社		2004
431		悪性絨毛上皮腫	き	キセキ ツマ オコ ナカ イノチ 奇跡よ妻に起これ 7日の命とい ナオ われたガンが治った！	ナガミネ リョウサイ 長峯良斉	主婦と生活社		1987
432		外陰がん	ひ	ニチ ひかりのなかへ 700日のDIARY	タジマ ユウコ 但馬裕子	アルタ出版	大学院への復帰を信じ、自らの悪性腫瘍と正面から対峙し、懸命に闘って短く壮絶な生を生きた一人の若い女性の700日の記録。追悼のメッセージも収録する。	2003
433	皮膚	悪性黒色腫	か	カタメ ウシナ ミ 片目を失って見えてきたもの	ピーコ	サンマーク出版	なんとも思っていなかったまわりのものが、いま、とてもいとおしい…。ガンで左目を摘出した著者が、あらためてかみしめた友情のありがたさ、過ぎていった日々とこれからの毎日の大切さを綴る。	1999
434			も	フタリ ハシリ もういちど二人で走りたい	アサイ コ 浅井えり子	徳間書店	今年3月、監督であり夫でもあった佐々木功をガンで亡くしたマラソンランナーの著者が自ら綴った哀切の手記。数か月の命と知っての入籍から194日間の闘病生活まで、走り続けた2人の全ドラマ。	1995
435			よ	ヨア 夜明けのE・Tごっこ がん死こう バアイ ちゃんの場合	サトウケイコ 佐藤桂子	東京経済		1999
436				メ ベンキョウ よってたかって目の勉強	エイ ロクスケ 永六輔・ピー コ	扶桑社		1990
437			悪性黒色腫 (鼻腔悪性 黒色腫)	き	キセキ 奇跡のトライ	ヤマシタ タダオ 山下忠男	池田出版	
438	骨・筋肉	悪性骨腫瘍 (骨肉腫)	あ	アイ シ ジュンアイ キ 愛と死をみつめて ある純愛の記 ロク 録	オオシマ コ 大島みち子 コウノ マコト 河野寛	大和書房新版		2006

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
439		悪性骨腫瘍 (骨肉腫)	あ	アスカ 飛鳥へそしてまだ見ぬ子へ 若き イシ シ チョクゼン ツズ アイ ショ 医師が死の直前まで綴った愛の手 キ記	イムラカズキヨ 井村和清	祥伝社・新装 版	死にたくない。生まれてくる子の顔を見たい…。不治の病に冒された青年医師が、最期まで生きる勇気と優しさを失わず、わが子と妻、両親たちに向けて綴った遺稿集。夫人による新原稿を加えた1980年刊の新装版。	2005
440			い	イノチ モ 生命燃えつきるとも ガンと闘つ アネ イモウト ハチ ゲツ た姉と妹の八か月	キノレイコ 紀礼子	時事通信社		1987
441			く	クシマズファイト 妻と子に捧げる、 チチ タタカ キロク 父としての闘いの記録	クシママサツグ 串間政次	体育とスポー ツ出版社	「生きるため」に左脚を切断した格闘家・串間政次が、今、家族への思いを胸に自身の存在の証としてリングに上がる! 真の強者たちをも驚嘆、そして感動させる闘いがそこにはあった…。	2004
442			わ	フカ 若きいのちの日記 愛と死の記録	オオシマ 大島みち子	大和書房新版	病院の外に、健康な日を3日ください…。死の間際まで書き記した心の軌跡! 2004年12月刊「愛と死をみつめて」のミコが恋人には言えなかった心の内を切々と綴る! 新版。	2005
443	骨・筋肉	悪性骨腫瘍 (ユーイング 肉腫)	か	カオ ナク 顔を失くして『私』を見つけた	ルーシー・グ レアリー	徳間書店	本当の顔とは何だろう? 美醜は一体、誰が決めるのだろうか? どうすれば「本当の自分」に辿り着けるのだろうか? 病気で顔を損傷した少女が、醜い顔が持つ意味を問い続け、自分自身と失った顔を取り戻すまでの感動の軌跡。	1998
444			い	イ 生きて迷わず死して悔やまず	ヤダソウイチ 矢田壮一	講談社		1992
445			あ	アンタ 明日もまた生きていこう 十八歳で センコク ウ フタクシ がん宣告を受けた私	ヨコヤマ ユミカ 横山友美佳	マガジンハウ ス	全日本合宿参加の連絡を受けたまさにその日、がんと闘いを始めた高校生・横山友美佳。発病するまでの18年間と、闘病しつつ大学受験やアルバイトなどの新たな経験を重ね、夢を追い求め続けてきた3年間の日々を綴る。	2008
446				摩優の樹ーいつか天の川でー	横井千香子	風葉社	* 嗅神経芽細胞腫	2003
447			は	ハラ タコ 腹に蛸が棲みついた	フクヨウゾウ 福与裕造	新風舎文庫		2007
448			ち	チ オチ 地に落ちよ、一粒の麦 若き大学 イシ トウビョウキ 医師のガン闘病記	ノグチ ユキヒロ 野口幸洋	産経新聞社	医師として、父として、夫として私はガンと闘いつづける。骨軟部の肉腫から生還した若き総合診療医の愛と涙の闘病700日の記録。ガン患者の立場から医療を省みた医師の胸中に去来するものは?	2001

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
449	骨・筋肉	軟部肉腫 (繊維肉腫)	し	シ ^{チャクリクヨウロ} 死までの着陸航路	アソウ カツヒコ 麻生勝彦	日本図書刊行会		1997
450		軟部肉腫 (平滑筋肉腫)	い	いのちのダンス ^{マイヒメ センタク} 舞姫の選択	ヨシノ 吉野ゆりえ	河出書房新社	元ミス日本で世界的トップダンサーの彼女を襲った「忘れられたガン」。そのとき彼女は、命をかけて「ブラインドダンス」を立ち上げた。平滑筋肉腫を抱えながらも、視覚障害者にダンスを教えている著者が、その生き様を綴る。	2008
451			み	湖の伝説 ^{ミズウミ デンセツ ガカ ミツハシ セツコ アイ シ} 画家三橋節子の愛と死	ウメハラ タケン 梅原猛	新潮社		1980
452		結合組織腫瘍	わ	わたしの天国 ^{テンゴク} でまた会いましょうね ^ア	クリステル ツアヘルト イザベル ツアヘルト	集英社	どこまでも強く明るく生き抜いた青春。16歳の少女が悪性腫瘍と闘った1年間と尊厳死を選ぶまでの日々。ひとりの自立した娘として、家族に死に対する心がまえをさせた少女と母の1年間を日記と手紙で綴る。	1994
453		骨巨細胞腫	う	美しく歩きたい ^{ウツ アル} 新たなる義足とと ^{アラ アシ} もに	コボリミチコ 小堀美智子	自費出版	不可能と思えることへの挑戦。失った左足を未来への希望に変えて…。左足切断という運命にも持ち前の明るさで立ち向かい、義足はハンディではないという生き様と人々へのメッセージを綴る。	2005
454		大腿腫瘍	か	片足喪失の記 ^{カタアシ ソウシツ キ} たとえ“ガン”で あっても	タカツキ ヒロシ 高槻博	柘植書房	働きざかりの男を突然ガンが襲った。肺への転移をおそれて、左足離断。死のおそれ、大手術への逡巡と決断、気の遠くなるようなリハビリ訓練。発症から手術、社会復帰までの心の動きを綴った感動の記録。	1995
455	血液・リンパ(白血病)	白血病	あ	アオ ソラ ム 青い空の向こうに	オオタミスズ 太田美鈴	新風舎		2007
456				あたりまえの日に帰りたい ^{ヒ カエ コツズイ} 骨髄 ^{コツズイ} 性白血病からの生還 ^{セイ ハツケツビョウ セイカン}	コバヤシ モトコ 小林茂登子	時事通信社	ある日、突然宣告された慢性骨髄性白血病。突然直面した死の恐怖に立ち向かい、驚嘆すべき沈着さと深い信仰に根ざした勇気をもって、ついに打ち克ち、見事に生還を果たした主婦の記録。	2000
457				イ 生きたい！！ ^{ボク リレキシヨ} 一僕の履歴書	イケダ シンイチ 池田真一	リーブル出版	闘いの日は続くけど、僕は生き続ける。最後の最後まで生き続ける。白血病、肺線維症と難病に襲われながらも懸命に闘い続ける著者が綴るケータイ闘病記。	2008
458				イ 生きてほしい、静かなる息子の闘 ^{シズ ムスコ タ} たい	アゲイシ カズコ 上石和子	ディーディーエヌ	突然襲った不治の病。病床にあっても、笑顔とユーモアを絶やさなかった学。傍らで見守り、励ましつづけた母親から息子への鎮魂歌。詳細な病状日記、病床から家族友人と交換したメールを収録する。	2004

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
459	血液・リンパ(白血病)	白血病	い	イ 生きてるってシアワセ	オオタニ タカコ 大谷貴子	スターツ出版社	慢性骨髄性白血病の宣告、私には生きるチャンスがないと泣きながら「助けて!」と叫びつづけた日々。あれから10年、骨髄移植で難病を克服した著者の、感動の手記。女優・東ちづるとの骨髄バンクについての対談も収録。	1998
460				イッスン サキ ヒカリ 一寸先は光 それでも生きたい	ナカタカンジ 中田完二	広済堂出版	遠い未来のことを考えると、そこには自分の力では変えられないものもある。しかし、今この時をどう生きるかによって、次の瞬間を変えることはできる。白血病、脳腫瘍、そして全盲との闘いで見た著者の命の輝き。* 脳腫瘍	2001
461				いのち煌めいて 由希子白血病と闘った青春	クノ テツヒロ 久野哲弘	東京新聞出版局	21歳。壮絶な生命の記録。自ら慢性骨髄性白血病と闘いながら、骨髄バンクキャンペーンガールとして活躍した中堀由希子さんの切なく激しく生きた3年間をつづる。彼女の遺志は生きている。	1994
462				命よ孫よ 骨髄移植をのりこえた 家族の絆--その全記録	オオイズミ イツロウ 大泉逸郎	光文社	急性骨髄性白血病で倒れた長男は、奇跡的に父子間で型が一致し、骨髄移植が成功した。しかし、そのこと以上に家族の心を支えたのは、孫・慎太郎の存在だった…。闘病によって深まった家族の絆と孫への想いを綴る。	2000
463				インターネットを使ってガンと闘おう	ハニオカ ケンイチ 埴岡健一	中央公論社	情報が病気と闘う武器になる。みずからの介護体験、日米諸事情の比較を通じ、パソコンを駆使した新・闘病法を提唱。役に立つ情報を見つけるためのインターネット「リンク集」収録。	1998
464				え 永遠の愛を誓って	アズミ マサコ 安積政子 フジヤス ヒデキ 藤保秀樹	宝島文庫		1998
465				お 俺、マジダメかもしれない…「急性リンパ性白血病」で逝った最愛の息子へ	タカノ ユミコ 高野由美子	太陽出版	敏行はひとりぼっちじゃない。みんなの心の中に生き続けるよ。大好きなバスケットにバンド、愛車のモンキー、そして愛する家族と友達を残して、18歳で旅立った敏行。精いっぱい生きた証を、母が綴った愛の記録。	2008
466				か 母さん子守歌うたって 寸越薫・いのちの記録	ナスダミノル 那須田稔 キンカワ エツコ 岸川悦子	ひくまの出版	滋賀県信楽に生き、ひたすら陶芸の道を歩み続ける神山清子と、31歳の若さで白血病に倒れた同じ陶芸の道を志した息子賢一の、母と子の命の記録を綴った涙と愛の物語。	2002
467				かぜ デンゴン 風の伝言	クサカワ ヤエコ 草川八重子	かもがわ出版		1990

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
468	血液・リンパ(白血病)	白血病	か	カゾク オット ナカ 家族のたからもの夫・カンニング シマ ノコ サイゴ ニッキ 中島が遺した最期の日記	ナカシマ マナミ 中島真奈美	日本テレビ	白血病の闘病中に肺炎を併発し、35歳の若さでこの世を去った、お笑い芸人・カンニングの中島忠幸。彼の知られざる闘病生活、家族との愛、相方竹山との友情などを、妻の中島真奈美が綴る。	2007
469				カミサマ ナニ 神様、何するの… 白血球と闘つたアイドルの手記	ヨシレイ 吉井怜	幻冬舎	人気絶頂の吉井怜を襲った突然の不幸-白血病。抜け落ちる髪の毛、黒く腫れあがる顔、絶え間なく続く吐き気、ライバルの活躍、そして不妊…。涙が止まらない、壮絶なる闘病記。	2002
470				カ ハナ ヒ 枯れない花になる日まで	タカハギ ヒロユキ 高萩博幸	碧天舎		2006
471			ケツエキガタ カ ハッケツビョ 血液型が変わっちゃった！ 白血病、下半身麻痺、骨髄移植…死の淵からの生還	イシハラ ヤスユキ 石原靖之	マキノ出版	人は死と対峙した時に何を思うのか。折れた心はどう立て直せばいいのか。急性骨髄性白血病とはどんな病気なのか。背骨を削って腫瘍を取る手術、下半身麻痺、骨髄移植と、5年に及ぶ闘病生活の心情の変化を赤裸々に書き綴る。	2004	
472			シ ウミ オヨ 死の海を泳いでースーザン・ソントグ最期の日々	デイヴィッド・リーフ	岩波書店	亡くなるまでの9か月間、傑出した批評家・作家であったスーザン・ソントグは、文字通り「死の海」を泳ぎ続けた。その短い期間、母に寄り添い、ともに泳ぎ続けた一人息子が記した渾身のルポルタージュ。	2009	
473			セイジン サイボウ ハッケツビョウ トウビョウキ ノ 成人T細胞白血病ATL闘病記 乗り越えることが運命ならば	ヤカタ テアキ 尾形千秋	南方新社	発症2年でほとんどが死亡するといわれる成人T細胞白血病(ATL)。しかし発症から6年がたちながら元気に生活している人がいた。父親の闘病の様子を綴ったブログと近況をまとめる。	2008	
474			テンゴク マホ ハッケツビョウ タタカ ムスメ 天国の真帆へ 白血病と闘った娘への手紙	ヤマグチ エツコ 山口悦子	あけび書房	3年11カ月の闘病生活にもかかわらず、天国に旅立ってしまった娘・真帆。書き残した多くの闘病日記や手紙とともに、残していったくれたメッセージを何かの形にと、26年半の人生をありのままにつづった記録。	2007	
475			サイ ワカレ ナカホリ ユキコ 21歳の別離 中堀由希子	エンドウ マコト 遠藤允	学研	15秒に21歳の生涯を凝縮したようなスポットCMによって、日本骨髄バンクのドナー登録者に寄与した1人の若き患者。死に直面しながら、骨髄バンク運動を展開し、天性の明るさで生涯を貫いた中堀由希子の青春譜。	1994	
476			サイ ワカレ ハッケツビョウ 21歳の別離 白血病とのたたかいに青春をかけて	エンドウ マコト 遠藤允	学研M文庫		2001	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
477	血液・リンパ(白血病)	白血病	ぬ	ぬくもり	アンドウショウゴ・シヨウ 安藤庄吾・聖子	清風堂書店		2002
478			ハッケツビョウ セイカン 白血病からの生還	ムラヤマ マサノリ 村山正則	いのちのことば社		2001	
479			ハッケツビョウ セイカン キリ ナカ セイメイ 白血病からの生還 霧の中の生命	オオタニタカコ 大谷貴子	リヨン社	20代の青春期を、白血病との闘いと骨髄バンクの設立に注いだ著者の、ひたむきな生き方。骨髄提供という「善意」が確実に白血病患者のいのちの救済につながる。1991年刊「霧の中の生命」の改題、増補版。	2005	
480			ハッケツビョウ チリョウ ニッキ カゾク 白血病「治療」日記 家族でのりこ ニチ えた500日	クサマ シュンスケ 草間俊介	東京新聞出版局	45歳の私は臍帯血移植を受け、「完治率30%」から職場復帰した。急性白血病に冒された記者が綴る記録。『中日新聞』『東京新聞』連載「白血病入院日記」を単行本化。	2006	
481			ハッケツビョウ 白血病ママ	ハヤシ 林まどか	文芸社		2008	
482			ひ	180ccのいのち	オオタケ 大竹あや	日本テレビ放送網	告知、ドナーを待ちわびる日々、骨髄移植、無菌室、合併症、院内感染…。白血病と出会い、生と死をともにした人々との5年にわたる哀しくもおかしい日々。数々の賞に輝いたテレビドキュメンタリーの感動を再び。	1997
483			び	ビョウイン デ 病院を出よう!	タイラ ミキ 平美樹	星湖舎		2004
484			ふ	フタリ テンシ 「二人の天使」がいのちをくれた ハッケツビョウ セイカン サイタイケツ イシヨクト 白血病からの生還、臍帯血移植闘 ウビョウキ 病記	ヨシダ トシヤ 吉田寿哉	小学館	化学療法を続けるか、骨髄移植をするか。「いのちの選択」に悩むなかで知った、第3の治療法「臍帯血移植」。そして僕は、名も知らぬ赤ちゃんからいのちを分けてもらった! 白血病と闘った著者の472日間のドキュメント。	2005
485			べ	ベター・ハーフ	ニシカワ ナガミキ 西川永幹	ごま書房	十代で出会い、二十代で結ばれ、三十年間愛を育んだ夫婦の絆は、病魔によっても引き裂かれることはなかった。白血病のため帰らぬ人となった最愛の妻に捧げる思い。*乳がん	1998
486			む	ムキン ビョウシツ ヒト 無菌病室の人びと	アカツカ ノリコ 赤塚祝子	集英社		1993

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
487	血液・リンパ(白血病)	白血病	む	ムスメ ミキ ゼツタイ シ 娘・美樹を絶対に死なせない！	タイラノフコ 平宣子	パールバック		2006
488			も	イ ハッケツビョウ カンゾウ もっと生きたい 白血病と肝臓ガン イ オット ツマ シュキ で逝った夫とその妻の手記	ヨシノケイコ 吉野啓子	南雲堂	二人のために生きてという妻の手紙で堰が切れ 闇夜の中でひとり涙す…。万葉をこよなく愛した元・NHKアナウンサー吉野正美の凄惨な手記と、励まし続けた妻の献身的看護の記録。* 肝臓がん	1999
489			ゆ	ユカ エガオ 由香ちゃん笑顔ありがとう	サイトウ ユカ 斉藤由香	リトル・ガリヴァー社		2002
490				ユメ 夢をあきらめないで	トクダ ヒデキ 徳田秀樹	北國新聞社		1993
491			わ	ワタクシ ムスメ ハッケツビョウ ムスメ シ 私の娘は70cm 白血病の娘が死 フチ タイケン フシギ キロク ジカン の淵で体験した不思議な記録3時 ブン 間36分	ギョウテン ミヤコ 行天都 キョウテン アサミ 行天朝美	河出書房新社	18歳の春に白血病になり死の淵を行ったり来たりしながら体験した真実。無菌室のカーテンのこちら側から見た母の記録と、発病から3年間の娘の詩でつづる感動の一冊。NHK「青春メッセージ2000」二十歳賞受賞作品収録。	2001
492	骨髄異形成症候群		い	カケ いまを翔けぬける	ヨシザワ ミドリ 吉沢翠	新風舎		2006
493			に	ドメ タンジョウビ 2度目の誕生日	サカイチカコ 坂井千賀子	文芸社		2009
494			は	ハンセン ハッケツビョウ シ 反戦ストリッパー白血病に死す サワグチトモミデン 沢口友美伝	マサカリ ホノオ 正狩炎	グラフ社	時代を踊り、時代に倒れたひとりの女がいた。職業、自衛官を経て踊り子-。1979年の自衛官時代から、踊り子の時代、風組日本党の結成、そしてイラクでの反戦アピールまで。被爆2世として白血病に倒れた波乱の生涯を描く。	2006
495			み	イマ みんながいるから今があるから	ナカミノ ユウコ 中溝裕子	ホーム社	プロゴルファーとなって3年目、骨髄異形成症候群という、骨髄移植以外に治療方法がない難病の宣告をされた著者。多くの人々に励まされた日々を振り返り、骨髄移植や拒絶反応との闘いの中で知った「生きている喜び」を伝える。	2001
496			り	ヨツスイ ショク ノ コ リカバリー！ 骨髄移植を乗り越えて	ナカミノ ユウコ 中溝裕子	新潮社	夢のプロゴルファーになった著者を襲った「骨髄異形成症候群」。骨髄移植を受け新たな命を得るが、後遺症で更に苦しい入院生活に。絶望に沈む著者を支えたものは…。読者に元気を贈る熱血闘病記。	2005

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年	
497	血液・リンパ(多発性骨髄腫)	多発性骨髄腫	い	イノチ 命 ^イ いっぱい ^イ 生きた ^{ヒビ} 日々	コノシユウサク 鴻農周策	NHK出版	闘病日誌と書くのはよそう、闘病、克病を含む、今の、明日の、人生の日々の日記を考えよう…。43歳で末期ガンの宣告を受けたディレクターが、死の恐怖と激痛の中で、仕事に命を燃やしながら克明に書き続けた8年間の日記。	1994	
498			お	オ 老 ^オ いが老 ^ミ いを看るとき ^{ケツエキ} 血液 ^{ケツ} ガン ^{エキ} の妻 ^{ツマ} を介 ^{カイ} 護 ^ゴ して	アサズマ マサミ 浅妻正美	日本評論社	老いた夫が、妻が、パートナーを介護するケースが今後ますます増えるだろう。「二人」が「一人」になる時、どう生きるか。不治の病と宣告された末期ガンの妻を、自宅で介護しようと決意した男の奮闘記。	1997	
499			と	トウガンキ 闘 ^シ 癌 ^{セン} 記 ^{コク} 「死 ^{ワタシ} の宣告 ^{センタク} 」と私の選 ^{セン} 択 ^{タク}	マイケル・ギアリン トツシュ	原書房	診断の結果は癌。化学療法を開始しなければあと数カ月の命と宣告された著者は、化学療法を拒否し、自分自身が納得できる前向きな治療生活を始め、死を克服した。闘病生活から医学的な疑問、問題点までを綴った、命輝ける手記。	2003	
500				届かぬ恋文	田中千勇子	もぐら書房			2007
501			ほ	ホネ キ 骨 ^タ が消 ^{ハツ} えた！ ^{セイ} 多 ^コ 発 ^ツ 性 ^ズ 骨 ^イ 髄 ^シ 腫 ^ユ で 逝 ^{アソウ} った ^{コウジ} 医 ^{アソウ} 師 ^{ノブコ} の ^{ノブコ} 闘 ^ア 病 ^{ソウ} 記 ^{ソウ}	アソウ コウジ 阿相幸治 アソウ ノブコ 阿相信子	メトロポリタン出版	自分で自分の病気を診断、専門家に最終診断を依頼、そして結果は妻以外の身内に秘密にしよう決心する…。消えた骨に我が目を疑った日から4年8ヵ月。自らのガンを冷徹に見据えつづけた医師の記。	1994	
502	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	悪性リンパ腫	あ	アイ シ 愛 ^{タカ} と死 ^{オツ} のはざまで ^{タカ} ガン ^{オツ} と闘 ^{タカ} う夫 ^{オツ} と 妻 ^{ツマ} の愛 ^{アイ} と苦 ^ク 渋 ^{ジュウ} の往 ^{オウ} 復 ^{フク} 書 ^{シヨ} 簡 ^{カン}	ハマハタ オサム 浜畑紀 ハマハタ ミエコ 浜畑美恵子	恒友出版	最期までガンと知らずに夫は逝った。絶え間なく襲いくる、病の苦しみと闘う夫。一人残され、家事と子育てに忙殺される妻。将来への不安、医師への不信、少しずつ広がる心の隙。心と心を交わし合い真実の愛を知った夫婦の物語。	1994	
503			あ	アクセイ シュ コフ ナオク 悪 ^シ 性 ^{コフ} リン ^{ナオク} パ ^{ナオク} 腫 ^{ナオク} なん ^{ナオク} て怖 ^{ナオク} くない ^{ナオク} 直 ^{ナオク} 君 ^{ナオク} の悪 ^シ 性 ^{コフ} リン ^{ナオク} パ ^{ナオク} 腫 ^{ナオク} 格 ^シ 闘 ^{コフ} 記 ^{ナオク}	ミネ ナオリ 峯直法	文芸社	「血液のがんです」「なぜ私が!？」たくさんの善意と支援に支えられて骨髄移植という想像を絶する苦難を乗り越え、奇跡の“完全寛解”に至るまでの1年間。リンパ腫との格闘経過や治療の内容、エピソードなどを綴る。	2007	
504				アメリカ的 ^{テキ} ガン ^{トウ} 闘 ^{ビョウ} 病 ^キ 記 ^キ すべては告 ^{コク} 知 ^チ から始 ^{ハジ} まった	リー・あおい	東京書籍	日本の医療に絶望し、アメリカでのガン治療を決意した夫。アメリカの医者は患者にどのような話し方をするのか、アメリカの人たちは遺族にどう接するのか。見知らぬ地で夫の闘病を支え続けた勇氣ある妻の記録。	1999	
505			い	インヤ 医 ^シ 者 ^ム が、が ^ム んで死 ^ア と向 ^ア かい合 ^ア うとき	フセトクマ 布施徳馬	講談社	「医師と医学と医療を信じ、賭けた。しかし…」がんの再発で死に直面した外科医の告白。がん治療の最前線の現実と、生への執着、死の恐怖との闘いを赤裸々に書き下ろす。家族への手紙も収めている。	1994	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
506	血液・リンパ(悪性リンパ腫)	悪性リンパ腫	が	ガンとして生きる 明日死んでもよし し百まで生きてもよし	セキネトクオ 関根徳男	慶應義塾大学出版会	癌になり、その後、生かされた。その経験が「明日死んでもよし、百まで生きてもよし」という心境を生んだ…。2度の癌の手術を経験した著者が、入院日記のほか、8年間の闘病で辿りついたことをまとめる。	2005
507			こ	コイ サイボウ 恋する細胞たち ガンの日々	ウツミ ハルヨ 内海春代	幻冬舎ルネッサンス		2006
508			す	スナオ 素直になれたら	ニシモト フジコ 西本富士子	新風舎		2005
509			せ	セキベツ トモンビ 惜別の灯 がんと闘いぬいたある ケイサツカン キロク 警察官の記録	アンドウ ヨシノリ 安藤義教	MBC21	悪性リンパ腫発病から10年の間に著者の書きつづった日記、メモ、俳句、詩などをまとめたもの。闘病生活の中の心の叫びや家族への愛、抗がん剤や放射線治療といった現代医学への疑問が率直に語られている。	1996
510			と	トキ ユ 時の揺りかご	ニシカフ ユキコ 西川由起子	新風舎	明日のことは明日に任せて、揺られてみよう 時折、かごの縁に手をかけて世界を眺めてみよう 揺りかごから落ちたりもしてみよう 悪性リンパ腫と診断された著者が、その事実には屈することなく綴った手記。	1997
511			は	ハシ チチ ヤマタニシンペイ ゴセン 走りつづけて 父・山谷親平 五千 ロッキンクイックイ アサ 六百一回の朝	ヤマタニ ヨ 山谷えり子	ニッポン放送出版		1985
512			ひ	ヒ 白がのぼり白がしずむ	ヒロサワ ナオミ 広沢直美	自分流文庫		1997
513			へ	ヘ コンデモ 25歳ナツコの明るいガン闘病記	タワダ ナツコ 多和田奈津子	新潮社	おしゃれなOLだったナツコは25歳で再びガン患者になったけど、苦しい治療をクリアして大切なものを勝ち取った。友情、家族愛、そして生きる喜び!! 笑って泣いて感動する「明るいガン闘病記」。	2002
514			ゆ	ユウヤ ム ガフ 夕焼けの向こう側	ノガフ 野川はるひ	文芸社		2006
515			わ	ワ ユビョウ ヒビ 吾が遊病の日々	イトウ ジョウ 伊東丞	東京図書出版会		1999
516		ホジキン病	び	ビョウシツ 病室のひとりごと	ヨコイ マサヒロ 横井正裕・とし子	文芸社		2001

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
517	小児がん	小児がん	あ	アイ 愛してるよカズー <small>ショウニ タカ</small> 小児ガンと闘った ハイオヤ ムスコ アイ キロク 母親と息子の愛の記録	ミツタケ リョウ 光武綾	長崎文献社		2008
518				アオ ヨア 碧い夜明けに母となるー小児ガン との闘いの記録	アサノ タカコ 浅野多歌子	遊タイム出版		1995
519			た	タネ コ 種まく子どもたちー小児ガンを体 験した七人の物語	サトウ リツコ 佐藤律子	ポプラ社 (角川文庫は 2006)	小児ガンにかかった7人とその家族の手記。難病と向きあって日々を精一杯生きる姿は、生きること・死ぬこと、人の尊厳、家族や人々の絆など、多くの大切なことを教えてくれる。	2001 2006
520			よ	ヨウスケ 陽介、パパがついてるぞ	ニシダ オサム 西田修	かもがわ出版		1992
521			わ	わたしの家 <small>イエ</small> の戦士 <small>センシ</small> と天使 <small>テンシ</small>	タカト オイサオ 高遠勲 タカト オイク 高遠郁	文芸社		1995
522	その他	嗅神経芽細胞腫		摩優の樹ーいつか天の川でー	横井千香子	風葉社	* 横紋筋肉腫	2003
523		血管腫	が	ガン <small>カ</small> に克つカ <small>チカラ</small> こうして私は病室を出た	コノエケンキチ 近衛剣吉	三一書房		1986
524		骨溶解性悪性血管腫	ほ	ホネク タロウ ホネ ト 骨食 <small>ナンビョウ</small> い太郎 骨が溶ける難病とガ ンの克服を描いた童話と手記	マツシタ 松下かつとし	ミネルヴァ書房		1990
525		神経内分泌腫瘍	せ	セイ シン キョウカイセン サイゴ ジュウ 生と死の境界線 <最後の自由>を 生きる	イワイ ヒロシ 岩井寛口述 マツオカ セイゴウ 松岡正剛構 成	講談社		1988
526		腺がん	が	ガンとともに生きる	ゲール・エル トン・メーヨー	作品社	ストレスから生じた死病、ガンを強い精神力で乗り越え、発病以来24年を生き抜いた半生の記録。病魔との極限の戦いを通して存在の意義を平静に見極める絶筆となった感動の手記。	2003

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
527		未分化小細胞がん	さ	サエ ^{サエ} 沙恵ちゃん ^{ネンカン} 25年間ありがとう	キタムラミヨコ 北村美代子	明窓出版	「未分化小細胞がん」という病のため、最愛の娘と25年で別れなければならなかった著者がその闘病の日々を綴った、日記形式のドキュメンタリー。発病から末梢血造血幹細胞移植、転院、そして永訣の時までを、詳細に記す。	2006
528		転移性皮膚がん(鑑状がん)	う	ウラギ ^{ウラギ} 裏切られたがん患者たち ^{カンジャ}	イワマツヒサオ 岩松久保	五月書房	末期がん患者は病院に見捨てられてしまうのか。がん治療で医療機関に入院した人々の声をもとに医療現場の実態を物語風に綴り、医療現場改善のための問題提起を行う。*乳がん	1999
529	が		カンジャ ^{カンジャ} ビョウイン ^{ビョウイン} オフ ^{オフ} がん患者が病院から追われるとき	イワマツヒサオ 岩松久保	主婦の友社	がん入院した病院から退院を強制される、そんなことが許されるだろうか。しかし著者の妻は、臓器移植の美名のもとに、病院を追われた。日本の病院と患者との間にくすぶる問題を提起したドキュメント。*乳がん	1994	
530	その他		心筋梗塞	わ	イノチ ^{イノチ} ヒ ^ヒ わが命の灯を ^{シンキンヨウソク} 心筋梗塞と肺がん ^{ハイ} を越えて	アギオウスケ 阿木翁助	講談社	*肺がん
531		リンドウ病(フォン・ヒツペル-リンドウ症候群)	ひ	ひとりのひとを ^{カナ} 哀しむならば	オオサワツネヤス 大澤恒保	河出書房新社	愛する家族の死がくれた、「書く」という習慣。かつて傾倒した西東三鬼の俳句や散文に同質の波長を感じとり、三鬼と戯れながら書き続けた、母と二人の弟たち、そして自分自身への鎮魂歌。第5回蓮如賞佳作受賞作品。	1999
532		アンソロジー	い	イ ^イ 生きる。がんと向きあう7人の ^ム ストーリー ^{ニン}	イノウエレイナ 井上玲奈 トリゴエ シュンタロウ 鳥越俊太郎 サルワタリ ヒトミ 猿渡瞳 他	幻冬舎	がんを乗り越えた彼女に、氷上のプロポーズが待っていた。がんで父を亡くした後、自身もがんの宣告を受けたフィギュアスケート選手・井上怜奈をはじめ、がんと向きあう7人の希望のストーリーを収録。	2009
533			い	カガヤ ^{カガヤ} いのち輝かそう ^{マンヨウシュウ} いのちの万葉集 1	カメイ マサキ 亀井真樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	ロハスメディカル	誰よりもつらく苦しいはずのあなたからの「ありがとう」…。がん・難病と共に生きる人々の真実の言葉。「第1回いのち輝かそう大賞」応募作品139編の中から、大賞のほか各賞にノミネートされた57作品を収録。	2007

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
534	その他	アンソロジー	い	いのち輝かそう いのちの万葉集 2	カメイ マサキ 亀井眞樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	ロハスメディカル		
535				いのち輝かそう いのちの万葉集 3	カメイ マサキ 亀井眞樹 カワグチ ヤスシ 川口恭	ロハスメディカル		
536				いのちの一句 がん向き合う言葉 イック ム ア コ トバ	いのちの歳 イジキヘンシュウイ 時記編集委 インカイ 員会	毎日新聞社	渥美清、夏目雅子、吉村昭、倉嶋厚…。25人のがん経験者が詠んだ俳句と、彼らのがんにまつわるエピソードを紹介。また、がん経験者に加え、その家族や友人、医療関係者から公募した「がん俳句」も収録する。	2010
537			がん患者として長期生存する医者たち カンジャ チョウキセイゾン イシャ	キクチ ケンイチ 菊池憲一	海拓舎	「私のがん患者です。一緒に闘いましょう!」医者が末期がん患者として死と向き合ったとき、病を克服するために選択した治療法とは? 5人の医者たちが自らのがん体験をもとに、患者と医療の在り方を語る。	2000	
538			がん患者を生きる カンジャ イ	アサヒ シンブン イリヨ 朝日新聞医 療グループ	朝日新聞社	医師の診断・治療法は絶対か? 最先端技術・未承認薬の効果は? 余命宣告のショックからいかに立ち直るか? だれもが悩む問題を患者や家族の体験からつづる。『朝日新聞』連載を単行本化。	2007	
539			ガン50人の勇気 ニン ユウキ	ヤナギタクニオ 柳田邦男	文芸春秋		1989	
540			がん闘ったスターたち タタカ	ヒルマ マサアキ 肥留間正明	テレビ朝日		1993	
541			がんになって生きるということ、死ぬということ イ シ	ツネカゲ ジュンイチ 常蔭純一	潮出版社	井上ひさし、青島幸男、赤塚不二夫、本田美奈子…。彼らのがんを宣告されてから亡くなるまで、どのようにがん向き合い、人生をまっとうしたか。著名がん患者19人の終末期の物語。『がんサポート』連載を大幅加筆・修正。	2013	
542			ガンのある日常 体験者18人のいのちの力 ニチジョウ タイケンシャ ニン チカラ	カゲヤマ カズコ 影山和子	NTT出版	愛する人を看取り、自らの一部を失いながら、人はどのように「ガンのある日常」を受け入れていったのか。様々なかたちでガンと直面した18人の証言。『月刊がん・もっとうい日』連載をまとめる。	2003	
543			「がん」は患者に聞け! 有名人16人の全闘病記録 カンジャ キ ユウメイジン ニ ン ゼントウビョウキロク	ヨシダ ケンジョウ 吉田健城	徳間書店	がんを告知されたら、あなたはまず何を考えますか? 山田邦子、栗本薫、大橋巨泉…。読めば勇気が出る16人の優しい言葉を集める。『がんサポート』連載を加筆訂正して単行本化。	2009	

がん闘病記リスト

番号	部位	病名	かな	書名	著者名	出版社	概要	発行年
544	その他	アンソロジー	が	がんばって！っていわないで。 ^カ が ンジャ ^{ホンネ} ん患者180の本音	ニシデ マユミ 西出真由美	主婦と生活社	家族、医師、会社に面と向かっては言えないことも、匿名で1行なら聞かせてもらえるのでは？ 患者の数だけ人生があり、つぶやきがある。愚痴でも、感謝でも、泣き言、慟哭、暴言でも構わない。がん患者のひと言本音を集める。	2003
545			が	がん ^{マツキオツ ム} 末期夫と向きあ ^{サイゴ} った ^{ジカン} 最後の時間	ティービーエス TBS『スー パーフライ デー』	マガジンハウス	TBS「スーパーフライデー」で放送された内容の単行本化。大泉滉夫妻、浜口庫之助夫妻など5組の絶望と光明の中で知った至上の夫婦愛。ふたりでガンと闘い尽くした濃厚な日々を収録する。	2000
546			し	シン ^{ニン ユウキ} 新・がん50人の勇氣	ヤナギタクニオ 柳田邦男	文芸春秋	迫り来る死を前に人はいかに生きるか。昭和天皇から本田美奈子まで、がんと向き合った作家・俳優・音楽家・学者・僧侶・企業人50余名の「生と死」のかたちを綴る。最期の瞬間まで生を全うした感動のドキュメント。	2012
547			ぶ	ブンゲイシュンジュウスペシャル 文芸春秋SPECIAL No.18(201 1年秋号) がん ^イ を生きる		文藝春秋		2011
548			み	ミナ ^{ケンキ カ} 見慣れた景色が変 ^{ガンコク} わる ^イ とき「癌告 知」18人の知恵と勇氣に学 ^{チ ニン チェ ユウキ マナ} ぶ	ニホン 日本ペンクラ ブ	光文社	自分自身や身内が癌を告知されたらどうするか。癌をどのように告知されて、その告知をいかに受けとめ、何を考え、どう行動して自分なりにどのような結論を持っていったかなどを綴った、18人の貴重な体験手記。	1999
549			や	ヤマイコ 病を超えて いのちの対話 ^{タイワ}	キシモト ヨウコ 岸本葉子	中央公論新社	がんを生きる。ひとりを生きる。スピリチュアルを生きる。鎌田實、逸見晴恵、香山リカ、山折哲雄…。がんを体験した著名人、専門医、宗教者など12人の賢者と語らった対談集。	2008